

平成11年度 (1999)

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
第5回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会

岡山大会報告

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

開 会 行 事



来 賓



主 催 者



厚生省社会・援護局施設人材課福祉人材確保対策室
マンパワー夏季区係長 資格・試験係長
喜田川 典 秀

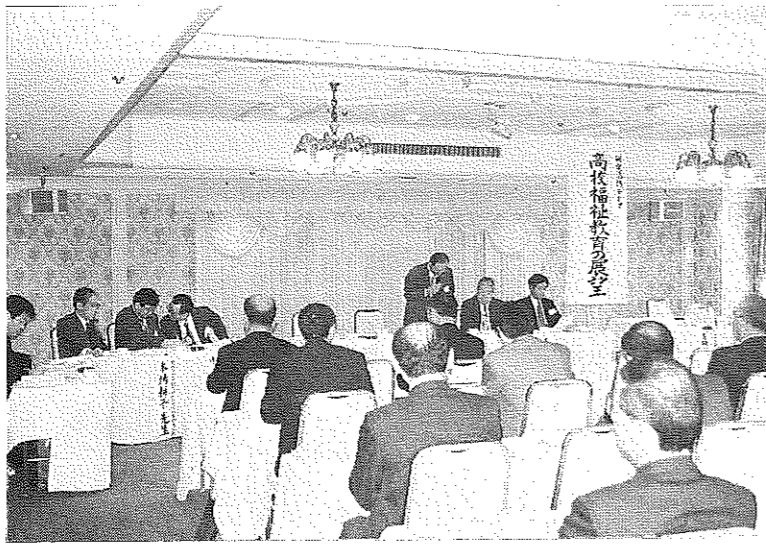


全国高等学校長協会家庭部会理事長

山 田 辰 明

分科会

1. 校長部会



2. 学科設置校分科会

発表者



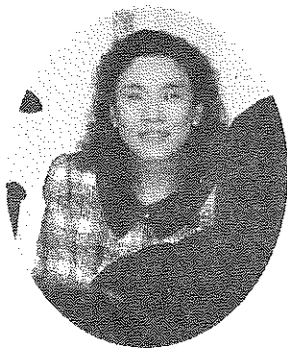
高浜高校教諭
鋤柄由美子



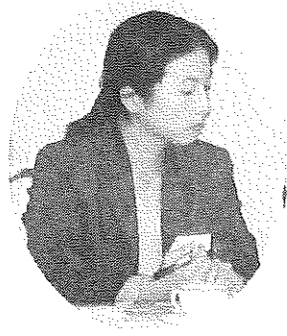
山辺高校教諭
目黒 圭子

3. コース・総合学科・その他学科等設置校分科会

発表者



御宿高校教諭
丸 ひさ子



福知山高校教諭
渡辺みどり



講演会

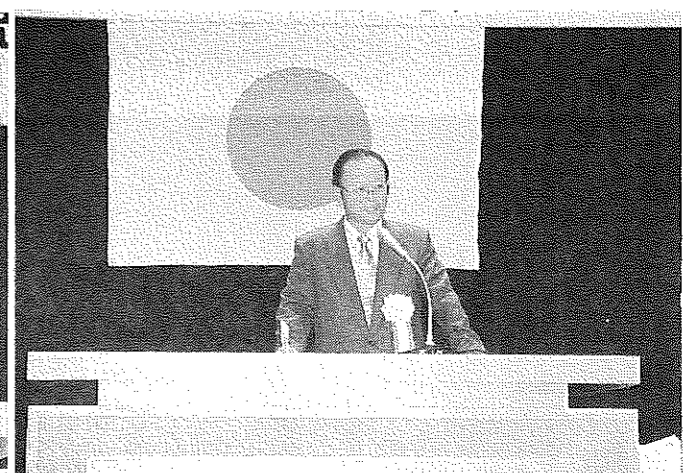


講師 文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官 矢幅清司

全体報告会



全国高等学校長協会家庭部会事務局長代理
小島和雄



全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長
山口祐司

主管校紹介



ベル学園高等学校長
高畑幸彦

オープニング
「ハンドベル演奏」



アトラクション
オペレッタ「ヘルゼルとグレーテル」
社会福祉科児童福祉コース3年



目次

平成11年度 岡山大会の概要 2

来賓・主催者・主管校代表者 3

あいさつ「教科『福祉』に係わる諸課題」

 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長 山口 祐 司 --- 4

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員 5

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会総会

 並びに学科主任等研究協議会会場地区一覧表 5

理 事 会 6

学科主任代表者会議 7

公 開 授 業 8

開 会 行 事 9

講 演 会「高等学校福祉教育の課題と展望」

 文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官 矢 幅 清 司 10

全体報告会 13

校長部会・総会 15

平成10年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事業報告 16

平成11年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事業計画 17

平成10年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会計決算書 18

平成11年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会計予算書 19

校長部会・研究協議会 20

主任等の部会・研究協議会（学科設置校） 24

 （コース・総合学科・その他の学科等設置校） 30

部会報告・指導講評・閉会行事 37

岡山大会を終えて ベル学園高等学校長 高畑 幸彦 39

主管校の学科主任として ベル学園高等学校総合福祉科主任 五十嵐 武 39

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約 40

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会学科主任代表者会 41

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校一覧 42

あとがき（諸連絡） 50

平成11年度 岡山大会の概要

- 1 研究主題 高等学校福祉教育の充実と発展をめざして
— ひびく・ひらく高校福祉教育の出発 —
- 2 期 日 平成11年10月20日(水) <理事会・学科主任代表者会議>
平成11年10月21日(木)・10月22日(金) <総会・研究協議会>
- 3 主催等
主催 全国高等学校長協会家庭部会
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
共催 岡山県教育委員会
岡山県産業教育振興会
岡山県高等学校家庭科教育協会
主管 ベル学園高等学校
- 4 会 場 ベル学園高等学校(岡山市下伊福西町7-38) TEL 086-252-2101
カルチャーホテル(岡山市学南町1-3-2) TEL 086-253-2233

5 基本日程 10月20日(水)

15:00 15:30 17:00

受	理 事 会
付	学科主任代表者会議

第1日目 10月21日(木)

9:20 50 10:35 12:00 12:50 14:20 15:30 16:10 17:50 18:10 20:00

受	公開	開会	昼	講演会	全体報告会	移	総会・研究協議会(校長)	休	教 育
付	授業	行事	食			動	研究協議会(主任等)	憩	懇談会

第2日目 10月22日(金)

9:00 10:30 11:40 12:10 13:00 15:30

研究協議会(校長)	部活報告	閉会	解 散	教育視察
研究協議会(主任等)	指導講評	行事		

- 6 参加校(者)
114校 (207名)

来賓・主催者・主管校代表者

1 来 賓

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官	矢 幅 清 司
厚生省社会・援護局施設人材課福祉人材確保対策室 マンパワー企画係長 資格・試験係長	喜田川 典 秀
岡山県教育委員会教育長	黒 瀬 定 生
岡山県教育委員会教育次長	宮 野 正 司
岡山県総務部総務学事課長	湯 浅 一 郎
岡山県教育庁指導課総括指導主事	山 下 滋
岡山県教育庁指導課指導主事	考 藤 悦 子

2 主 催 者

全国高等学校長協会家庭部会理事長	山 田 辰 明
全国高等学校長協会家庭部会 福祉科高等学校長会会長	山 口 祐 司
全国高等学校長協会家庭部会事務局長代理	小 島 和 雄
岡山県高等学校家庭科教育協会理事長	坪 江 武 郎

3 主管校代表者

岡山県ベル学園高等学校長	高 畑 幸 彦
--------------	---------

教科「福祉」に係わる諸課題

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長

山口 祐司

全国各地からこのように多数の先生方のご参加をいただき、第5回総会・研究協議会・並びに学科主任等研究協議会が盛大に開催されますことを大変ありがたく、嬉しく存じます。

ご来賓として文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官矢幅清司先生、厚生省社会・援護局施設人材課喜田川典秀先生、そして岡山県教育庁指導課の山下滋先生をはじめ地元教育関係諸先生方のご臨席を賜り、誠にありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、本年3月文部省告示により、高等学校学習指導要領が改正され、私達が永い間待ち望んでいた専門教科福祉が創設されました。このことは今まで福祉教育に携わってきた皆様方の日頃の努力が認められた結果だと思えます。皆様方の今までの福祉教育に対する熱心な取り組みに改めて感謝申し上げます。また、高齢者や障害のある人々等への介護サービスに対応できる専門的な知識や技術を有する人材の育成と確保が一層要求されることとなります。

専門教科福祉が創設されると、問題になるのが教員免許状、教員定数、教科書の整備等があります。新教科「福祉」の教員養成については、大学における養成と現職教員等を対象とした免許取得を可能とする措置の2つが考えられます。大学における養成では、各大学が平成12年度に「福祉」の教員養成課程について認定を受け、平成13年度より教員養成の開始が可能であります。3、4年次で必要単位を取得した場合、平成14年度末に免許取得ができます。一方現職教員等を対象とした免許の取得については、平成12年度より平成14年度までの3年間、原則として夏休み中の15日間講習会を開催し、受講者に「福祉」の免許を与えるべく文部省で準備を

進めております。この講習会に参加できるのは、平成15年度以降に教科「福祉」を担当することが予定されている基礎となる他教科の免許を持つ現職教員等です。基礎となる免許の範囲については現在文部省で検討中であります。

ところで、平成15年度から新学習指導要領にそって教育課程を編成し、福祉教育を実践することになりますが、各学校において新しい教育課程を検討中のことと存じます。教科「福祉」を担当する教員定数はその学校の教育課程によって決まるとは思われますが、社会福祉演習等の科目では、少人数の班別指導が効果的であり、複数での教員による指導が必要です。できるだけ多くの教員を確保すべく関係機関に要望していく所存であります。

さて、全国高等学校家庭部会福祉科高等学校長会への加盟校も年々増加しておりますが、昨年度末の134校より12校増加して、今年10月1日現在146校となりました。また、この大会に参加された学校数が114校で、78%と高い参加率になっています。参加者数は、校長先生61名、学科主任等の先生方が141名、来賓の皆様、大会を運営する岡山県の先生方を含めると、総勢約240名であります。今後の福祉教育への熱心な取り組みが大いに期待されます。

今大会は、昨年同様研究主題「高等学校福祉教育の充実と発展を目指して－ひびく・ひらく高校福祉教育の出発」と設定しています。福祉教育の目標は、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、要介護者を思いやる気持ちや支える気持ちなど人間性をはぐくみ、高齢者や障害者等の自立を支援できる人材を育成することにあると思えます。こうした目標達成のための充実した研究協議会になることを望んでいます。

最後になりましたが、この大会開催にあたり主管校ベル学園高等学校さまをはじめ、協力校の岡山県の先生方には大変お世話になりますがよろしくお願い申し上げます。

この岡山大会が実り多いすばらしい大会になりますよう祈念いたしまして、挨拶といたします。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員

役職	地区	氏名	学校名	都道府県名
会長		山口 祐司	栃木県立真岡北陵高等学校	栃木県
副会長		本橋 恒雄	埼玉県立不動岡誠和高等学校	埼玉県
理事	北海道	外山 茂樹	函館大妻高等学校	北海道
理事	東北	瀬川 孝三	岩手県立一関第二高等学校	岩手県
理事	関東	佐々木 重昭	神奈川県立高浜高等学校	神奈川県
理事	北信越	澤田 欣郎	富山県立砺波女子高等学校	富山県
理事	東海	小田 博一	愛知県立古知野高等学校	愛知県
理事	近畿	宮谷 勝史	兵庫県立日高高等学校	兵庫県
理事	中国	藤重 豊	山口県立久賀高等学校	山口県
理事	四国	西村 義臣	松山城南高等学校	愛媛県
理事	九州	桐原 祥二	加治木女子高等学校	鹿児島県
監事	関東	東 勲	群馬県立吾妻高等学校	群馬県
監事	関東	立入 輝夫	栃木県立塩谷高等学校	栃木県

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会並びに学科主任等研究協議会会場地区一覧表

回・年度	ブロック	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州
1	平成7年度					東海(静岡) 三島高校				
2	平成8年度	北海道 釧路星園高								
3	平成9年度				北信越(福井) 大野東高					
4	平成10年度									九州(宮崎) 門川農業高
5	平成11年度							中国(岡山) ベル学園		
6	平成12年度					近畿(兵庫) 新宮高				
7	平成13年度		東北 ()							
8	平成14年度			関東 ()						
9	平成15年度							四国 ()		

理事会

平成 11 年 10 月 20 日 (水) 15:00 ~ 17:00
 ベル学園高等学校 第 1 応接室
 司会 橋本正信 (兵庫県立日高高等学校教頭)

学科主任代表者会議

平成 11 年 10 月 20 日 (水) 15:30 ~ 17:00
 ベル学園高等学校 会議室
 司会進行 池田延己 (函館大妻高)
 荒井智子 (真岡北陵高)

はじめに

晴れの国岡山にあるベル学園高等学校の応接室において、文部省教科調査官 1 名、家庭部会代表 2 名、地区理事 7 名、監事 1 名、福祉部会代表 3 名、主管校関係者 3 名、計 17 名の列席のもと第 5 回岡山大会に関わる運営の一切について協議が進められた。

会の状況

開会のことば (高畑幸彦主管校校長)
 あいさつ

- ・教科調査官 矢幅清司
- ・家庭部会事務局長代理 小島和雄
- ・岡山県家庭科教育協会理事長 坪江武郎
- ・主管校校長 高畑幸彦
- ・福祉科高等学校長会会長 山口祐司

報告事項

- 1 平成 11 年度役員の確認等について
 山口会長より、規約改正により今年度より本橋副会長の就任、関東地区より 2 名の監事 (吾妻高校長東 勲、塩谷高校長立入輝夫) の就任について報告。任期は 2 年。
- 2 平成 11 年度加盟校報告 (事務局)
 平成 10 年度 134 校、平成 11 年度 146 校。新規加入 16 校、脱会校 4 校。
- 3 平成 11 年度総会について主管校校長 (高畑幸彦) から報告
 「全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会」を「全国高等学校福祉教育研究大会」と非公式使用について等。
- 4 教科「福祉」に係わる現職教育等講習に関する調査研究協力者会議について山口会長より報告。

協議事項

- 1 平成 10 年度事業報告・決算報告・監査報告

- 2 平成 11 年度事業・予算案について
- 3 規約改正について
 第 8 条 5. 「会長所属地区からは新たに理事を選出できる。」
 第 11 条 「会費は年額 5,000 円とする。」の追加を会長報告。
- 4 要望書について
 文部省、厚生省へ「高等学校における福祉に関する学科・コース等の教育内容の充実と振興についての要望書」をできるだけ早く提出する。
- 5 次期開催について
 近畿地区幹事校より、
 役員会 平成 12 年 10 月 31 日 (水)
 全国大会 平成 12 年 11 月 1 日 (木) 2 日 (金)
 全国大会場 兵庫県神戸市
 主管校 兵庫県立新宮高等学校
- 6 平成 13 年開催地区について
 北海道・東北地区、主管校岩手県立一関第二高等学校の予定と会長より報告。
- 7 平成 12 年度第 1 回理事会について
 山口会長より 5 月 25 日 (木) 13 時 30 分の予定と報告される。
- 8 平成 12 年度役員について
- 9 その他
 (1) 各地区学科主任 (代表者) の複数制、理事会に主管校の校長が理事として出席等意見は出たが、来年度迄に検討する。
 (2) 通称名「全国高等学校福祉教育研究大会」を用い、幅広く学校教育や社会全般に福祉教育についての研究と関心を深めようとの提案があり、差し支えない範囲で本名称を使用することとした。

理事会閉会后大会会場等確認し終了となった。
 記録 横田百合枝 (ベル学園高教頭)

(荒井・真岡北陵)

- 1 第 5 回総会・岡山大会要項の内容説明をする。規約の第 8 条に 5 会長所属地区からは、新たに理事を選出できる。第 11 条に会費は年額 5,000 円とするを加える。第 6 回は近畿地区で、10 月 31 日 ~ 11 月 2 日、新宮高校が主管校、日高高校が副主管校。13 年度は東北地区で開催。
 (池田・函館大妻)
- 2 第 6 回総会は神戸総合教育センター (神戸駅前)。来年度第 1 回理事会は平成 12 年 5 月 25 日、家庭部会事務局で行う。
- 3 教科福祉の教員免許状は、家庭・看護・公民の教員が講習によって取得できるようになる。1 日 90 分で 4 コマの講習を 15 日間実施する。
 (現職教員等講習に関する調査研究協力者会議で講習内容を検討している。)
 (荒井・真岡北陵)
- 4 現職教員講習のための指導案について 74 校から貴重な資料を頂いた。
 (池田・函館大妻)
- 5 それぞれの役でまとめて各校に送りたい。
- 6 資料 7 文部省への要望書について。要望事項 7 と関連して安田生命の後援で 1 月 8・9 日に援助技術の講習会を行う。同会場にて大学の先生方とも研修・懇談ができる。
 (島村・加治木女子)
- 7 実習先での安全管理について要望書に入れてはどうか。
 (池田・函館大妻)
- 8 保険には入るべきであり、要望に入れたい。
 <参加者賛成>
- 9 資料 8 厚生省への要望書について。現行 38 単位が 34 単位にならないか。養成校の統一試験の成績では 3 割位しか国家試験に合格できないようだ。養成校にも国家試験を受験させてほしい。

い。

- (嶋田・古知野)
- 10 この会には平成 15 年から学科設置校以外の学校も入れるのか。
 (池田・函館大妻)
 - 11 平成 15 年からも加入できる。総合学科でも福祉を教える専門家が必要。
 - 12 組織分担について、各ブロック代表が 2 人でも良くなった。研修部・調査統計部・広報部のどこかに所属してほしい。
 - 13 分科会の協議事項についてアンケートを実施する。22 日分科会の後回収する。

平成 11 年度 ~ 12 年度

全国福祉科高等学校学科主任代表者会組織分担表

平成 11 年 10 月

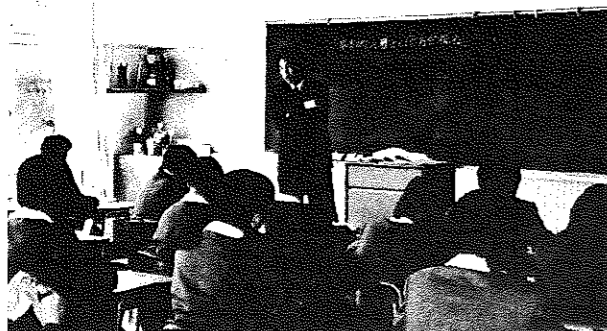
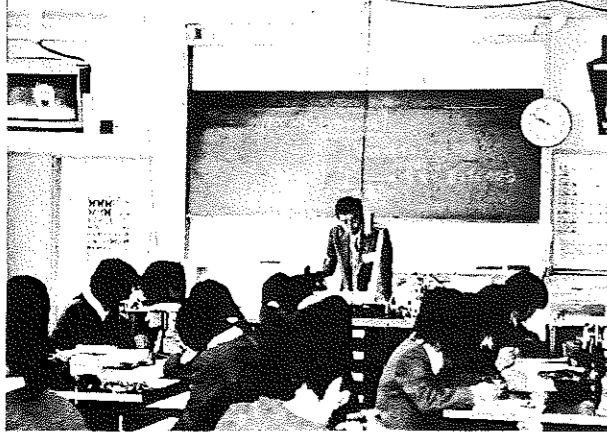
(1) 研修部 授業 (指導書) 研究	(2) 調査統計部 全国基礎調査	(3) 広報部 各校の近況・福祉情報
嶋田 麻知代 (古知野高)	池田 延己 (函館大妻高)	高橋 恵里香 (一関第二高)
五十嵐 武 (ベル学園高)	() 高	加賀谷 恵子 (栃波女子高)
中田 千栄子 (松山城南高)	() 高	山崎 由美 (日高高)
() 高	() 高	島村 健二 (加治木女子高)
校長部会 小田博一 校長 (古知野高)	校長部会 外山茂樹 校長 (函館大妻高)	校長部会 瀬川孝三 校長 (一関第二高)
事務局 荒井 智子 (真岡北陵高)		

記録 山本和弘 (岡山県ベル学園高)
 矢部京子 ()

公開授業

平成11年10月21日(木) 9:50～10:35
ベル学園高等学校

授業クラス	福祉教養系(2年)	科目名	人間科学論
授業担当者	渡辺 誠教諭	授業場所	理 科 室
学習のテーマ	人類の進化(テーマ1) 生命の発生から人類の誕生の歴史を系統的に学ぶ		
学習内容 (授業の主な内容)	○進化を遂げて登場したほ乳類の特徴 ○ヒトの進化 ・樹上生活から地上生活へ ・ヒトの祖先 ○ヒトの特徴 ・直立二足歩行にともなうヒトの特徴 ・ヒトの退化器官 ・系統発生と反復説		



授業クラスの系	福祉教養系(1年)	科目名	社会福祉基礎
授業担当者	吉川 泰介教諭	授業場所	本館2階2B
学習のテーマ	「基本的人権としての社会福祉とは」		
学習内容 (授業の主な内容)	古くからの「劣等処遇」の原則の考え方からどのように発展してきたのかについて学習する。		



授業クラス	児童福祉科(2年)	科目名	言語
授業担当者	青島 実香教諭 曾根 方子教諭	授業場所	地下保育 実習室
学習のテーマ	人形劇(てんぐのかくれみの、こびとのかつや)演技練習		
学習内容 (授業の主な内容)	○ストレッチ ○ダンスによる発声練習と柔軟体操 ○お手玉を利用したグループワーク ○演技練習(パート別部分練習) ○反省		

授業クラス	介護福祉系(2年)	科目名	基礎看護
授業担当者	寺田 貴美教諭 野上 恭子教諭	授業場所	体育館3階 介護実習室
学習のテーマ	健康状態の観察とアセスメント		
学習内容 (授業の主な内容)	○観察の技法、バイタルサインのチェックについて具体的な実践を想定し、実習する。 ○体温・脈拍・呼吸測定をし、血圧は水銀(リパロッチ型)と電子血圧計の2通りを使ってみる。 ○健康状態の観察とはどのようなものかを知る。		



開会行事

平成11年10月21日(木) 10:45～11:30
ベル学園高等学校 体育館
司会進行 三吉 肇(岡山県立倉敷中央高等学校長)

1. 開会のことば

岡山県高等学校家庭科教育協会理事長

坪江 武郎

2. 主催者のあいさつ

全国高等学校長協会家庭部会理事長

山田 辰明

ベル学園高等学校の生徒さんによるハンドベルの演奏の中、多数の来賓方の出席を賜り、また全国より多くの先生方の参加によって、開催されることをうれしく思う。

3月に文部省から告示がなされ、専門教科「福祉」が新たに設置された。高齢化社会に対応した公的介護保険制度も来年度よりスタートし、専門的知識や理念と技能をもつ人材育成がますます重要な時代になってきている。

この研究協議会が福祉のあり方や理念を深めあう実り多い会になることを祈念している。

全国高等学校長協会家庭部会

福祉科高等学校長会会長

山口 祐司

今年3月文部省告示により、高等学校学習指導要領が改訂され、専門教科「福祉」が創設されたことは、今まで福祉教育に携わってきた皆様方の努力の成果と考えられる。今後、教員免許状、教員定数、教科書整備等、いろいろな課題の検討が必要であるが、平成15年度から多くの福祉の先生方を配置していただけるよう福祉科高等学校長会として要望してゆきたい。

今大会は加盟校も146校と増え、たいへん喜ばしく思っている。福祉の基本的知識と技術を習得させ要介護者を思いやる気持ちや支えあう気持ちなどの人間性を育む福祉教育の推進と高齢者や障害者の自立を支援できる人材育成のため、充実した研究協議会になることを期待して

いる。

3. 来賓祝辞

文部省初等中等教育局職業教育課

教科調査官

矢幅 清司

教科「福祉」が新学習指導要領に告示されたことは、全国福祉科高等学校長会や、多くの先生方の厚い熱意と努力の成果である。少子高齢化社会の中で、福祉サービスに従事する人材の確保と人権尊重の人間教育が高校教育においてなされるという意義は大きい。今後それぞれの学校で実践をいかに充実させるかが鍵となっている。ベル学園高等学校の配慮により提供される4つの公開授業を参考として、全国のネットワークをいっそう緊密にはかり、福祉教育発展のために、更なる取り組みを期待している。

厚生省社会・援護局施設人材課福祉人材確保対策室マンパワー企画係長

資格試験係長

喜田川 典秀

福祉人材の確保と人材の養成に関わっている立場より高等学校のみなさんには、介護福祉士やヘルパー養成にご尽力を頂き感謝している。

来春より介護保険制度がスタートするため、各地で要介護認定が始まっている。福祉は措置制度から利用制度に変化した。経済的困難や身体的困難な状況にある、ごく限られた方だけの福祉から高齢化社会になり、誰もが福祉の対象となる考え方に変化した。しかし利用者側にたったサービスが出来ていないという反省がある。今まで以上に優秀な人材が必要であり、医療ケア等とうまく機能する必要がある。

各高等学校で熱心な実践をふまえ、交流する事により、より質の高い教育や人材養成ができると期待している。今後介護福祉士のカリキュラムを改正する予定であるが、よりよい介護福祉士の養成ができるようご意見をいただきたい。

岡山県教育庁指導課総括指導主事 山下 滋
教科「福祉」の創設は、教科のねらいや、科目ごとの内容がより具体的に示され、高等学校福祉の位置づけがより明確になった。社会のニーズや関心も高まっている時、本会の開催は大変意義がある。本会がますます充実発展することを祈念している。

4. 来賓紹介

岡山県立吉備北陵高等学校長 向原 康夫

5. 主管校あいさつ

ベル学園高等学校長 高畑 幸彦

6. 閉会のことば

岡山県高等学校家庭科教育協会理事長
坪江 武郎

記録 土谷三枝子(岡山県立岡山南高)
中桐 和子(岡山県倉敷翠松高)

講演会

平成 11 年 10 月 21 日(木) 12:50 ~ 14:20
ベル学園高等学校 体育館
司会進行 本橋恒雄(全国福祉科高等学校長副会長)

「高等学校福祉教育の課題と展望」

講師：文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官
矢幅清司氏

講師プロフィール

昭和 60 年 岩手県立盛岡養護学校教諭
花巻養護学校・みたけ養護学校歴任
平成 2 年 岩手県立一関第二高等学校福祉教養科主任
全国福祉科高等学校校長会の学科主任会の一員・教科書編集委員・新学習指導要領の改善に関する研究員(文部省)
平成 11 年 文部省初等中等教育局職業教育課福祉担当初代教科調査官

新教科「福祉」の創設

平成 15 年の新学習指導要領より教科「福祉」が創設されました。文部省における新教科の創設は昭和 45 年に「看護」が創設されて以来、実に 29 年ぶりのことです。教科「福祉」と「総合的な学習の時間」とが設定された事により、学校教育の中に教科としての「福祉」が正式に位置づけられて、教育課程の中で計画的・体系的に教える事ができるようになりました。

従来の福祉教育は「学校行事・特別活動」や「教科・科目の一分野」として、または「福祉講座への参加」の形式で、一部の熱心な先生に任されていたという現状がありました。さらに、福祉のもつ大切な理念を離れて、「車椅子」「手

話」「点字」など単発的で生徒の興味や関心を持つ内容だけに終わっていたという問題点があり、福祉教育を定着させるまでには至りませんでした。

教科「福祉」創設までの歴史を振り返ってみると、昭和 60 年に理科教育及び産業教育審議会答申「高等学校における今後の職業教育のあり方について」の中で「福祉科」設置が提言され、昭和 62 年ごろから、全国に福祉科がポツポツと誕生してきました。平成 5 年には福祉科高校の教科主任連絡協議会が 15 名の有志で結成され、平成 7 年になると埼玉県立不動岡誠和高等学校が中心となり、全国福祉科校長会が立ち上げられて、文部省を動かしていききました。このよう

な経緯をみなさんには知っておいていただきたいと思います。

文部省の動向

新教科「福祉」は平成 15 年から実施されるので移行措置は適応されません。平成 14 年までは従来通り、「その他の科目」として取り扱われる事になります。

職員免許状に関しては「福祉」と「福祉実習」の 2 つの免許を考慮しており、平成 12 ~ 14 年の 3 カ年間に限り現任者講習会を開催して、家庭・看護・公民の教員免許状所有者に取得してもらう予定です。まず各都道府県から 2 名ほどの指導者を出していただき、平成 12 年の 3 月に東京オリンピックセンターを会場にして、1 週間ほどの指導者養成講習会を行います。そして、全国を 5 ブロックに分割して、夏休みに 15 日間の講習を受けていただき各々のブロックごとに福祉の教員養成を行います。

教育課程については「産業教育」の誌上に掲載してありますので参考にして下さい。教科書は「社会福祉基礎」「社会福祉制度」「社会福祉援助技術」「基礎介護」「福祉情報処理」の 5 科目について発行予定であり、各出版社に依頼している所です。「社会福祉演習」と「社会福祉実習」については、実習科目なので教科書発行はしません。

福祉科卒業生の進路は、福祉方面への進学・就職が全体の約 6 割を占め、職業学科の設置目的を果たしているといえます。また、ほとんどの高校でホームヘルパーの養成を行っていますが、生徒の能力や学校の実態にあわせた級を与えてほしいと思います。

今後の課題

施設実習では、高校側がなかなか施設に入っていけない状況が見受けられます。各都道府県教育委員会が音頭を取りながら、高校と専門学校と短大との連絡協議会を発足させて施設実習の調整をしていただきたいと思います。現在での福岡県の取り組み状況を「産業教育」誌に載せていますので参考にしていただきたいと思います。そして、施設実習を行う際には事故が起

こる可能性もありますので、安全のためにインターンシップ保険に加入していただければと思います。

就職先の確保については、施設からの求人票は待っていても来ませんので、福祉人材センターに登録するなど各校で努力して、積極的に求人票を獲得してもらいたいと思います。

進学先の確保については、福祉科の教育課程の約半分は専門科目なので、指定校や推薦枠、AO入試などを活用しながら、取り組んでいただきたいと思います。国公立大学の中にも職業学科枠を広げていってもらっているところです。

専門教員の確保については、免許制度を創設する事により、現在「福祉」を担当している約 8 割にあたる家庭・看護・公民の先生方に対して現任者講習会による免許の取得ができます。残りの先生方に対しては、資格認定試験を行いますので、こちらの方法で免許を取得していただきたいと思います。

福祉教育推進のポイント

キーワードは「教師の力量」です。教師自身が何をどう教えるのかそのプログラムを作らねばならず、教師がいかに正しく豊かに生きてきたかを生徒はしっかりと見ています。そして、地域の中にどのような学習資源があるのかを気づく教員でいてもらいたいと思います。これからは校内だけではなく、地域資源を活用していくネットワーキングの手法が必要となってきます。

ボランティアを行う場合、ただ単に活動をさせてレポート提出をさせるのは福祉教育とは言えません。やりっぱなしの福祉教育にならないように、オリエンテーションをきちんとして意義を押さえると共に、終了後には考えさせる事が必要だと思います。ボランティアが道徳的な押しつけにならないように、高齢者や障害者から何を学ぶかの視点を常に持つ必要があります。また、その際、単発的にキャップハンディのみを体験させるのではなく、その事によって何を学ぶかの視点を大切にいただきたいと思います。

教師としては、職業教育の 3 つのポイントで

ある「自己獲得型の学習」「能力の客観的な評価基準」「能力の応用性の高さ」を大切にしながら、自分の価値観を生徒に押しつけず、教師側の価値観を変革させる事も大切となります。

職業学科といえば、即戦力・短期養成のイメージがありますが、「福祉」教育は生まれながら家庭教育や地域教育の中で、すでに幼い頃から始められています。高校福祉科では「福祉」を通して人間形成を促すものであり、専門分野の基礎・基本をしっかりと身につけて、より高度な知識や技術に備えていく事に意義があります。結果としての「資格」だけに心が捕らわれないよう、そのプロセスを大切にしてもらいたいと思います。また、高校は地域の中での文化センターや情報発信基地として、地域とつながりを持って福祉意識の啓発や普及に役割を果たしていく必要があるかと思っています。

質疑応答

Q 家庭・看護・公民以外の教科で、現在福祉を担当している先生方に対して、認定試験における恩典はあるか。(函館大妻高)

A 一般教養と教職教養に関する試験は免除して専門教科と面接のみで実施できるよう検討している。また、試験対策の講習会等も考えている。

Q インターンシップ保険に関して、感染症への適応はあるか。

A 医療行為を抜くために一人 250 円で扱われており、現在のところでは対応ができていない。しかし、全国的規模での加入が進めば、将来的には可能になるかもしれない。

Q 介護福祉士の高校生の合格率は、現在 NHK 学園の数値も含んでおり、純粋に高校のみの合格率を出していただきたい。

A 合格発表については厚生省の管轄となる。全国福祉科校長会へすべての福祉科高校が加入すれば合格率はだせると思う。

Q ホームヘルパー 1 級取得は 2 級修了者について与えるという点について情報があればお願いします。(川崎高)

A 本県は平成 7 年よりすでに実施されている。ホームヘルパーは資格だけではなく、研修に

よって得られるものであり、認定に関しては各都道府県が行うものである。

Q 「福祉実習」の免許とはどのようなものか。

A 「福祉実習」は実習を行うだけの免許で、「福祉」の免許があれば、座学も実習も両方教える事ができる。

Q 福祉の教員免許を家庭・看護・公民の 3 分野に限るという根拠を詳しく説明していただきたい。(明誠高)

A 国会にはまだ未提出なので決定事項ではないが、福祉分野の領域と教科の中身とを比較してみると、3 分野の教科に関しては「福祉」の内容と重なる部分が認められる。しかし、他の教科では重なりが少なく、法的に免許状を発行する基礎要件に該当しない。また、審議会答申の「社会等」の等は、社会科の中の等という意味であり、社会科以外の等を意味するものではない。

<謝辞>

山口 祐司(会長)

文部省の現在の動向について具体的に説明いただきましてありがとうございました。いろいろと質問事項もあろうかと思いますが、それぞれの部会で意見を出し合っていたいただきたいと思います。これからの「福祉」の出発点となります。文部省と我々と力を合わせていかなければなりません。矢幅先生には今後ともいろいろご指導賜りたく思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

記録 本多 淳宏(岡山県倉敷中央高)

中桐 和子(岡山県倉敷翠松高)

全体報告会

平成 11 年 10 月 21 日(木) 14:30 ~ 15:30

ベル学園高等学校 体育館

司会進行 外山 茂樹(北海道函館大妻高等学校長)

1 厚生省からの報告

厚生省社会・援護局施設人材課福祉人材確保対策室マンパワー企画係長資格試験係長 喜田川 典秀

資料：介護福祉士教育課程等の改正内容(案) 報告事項

— 介護福祉士教育課程等の改正内容(案) について —

(福祉専門職の教育課程等に関する検討会 報告書(抄))

期待される介護福祉士像とは、(資料 p.7)

① 感性豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、意志疎通をうまく行って介護を必要とする人との信頼関係を築くことができること。

② 要介護者等の状況の判断が的確にでき、それぞれに応じた計画的介護ができること。

③ 医療・保健・福祉との連携がとれること。

④ 人権を尊重し自立支援を目指した介護ができること。

具体的カリキュラム(資料 p.1~4)

基本的には福祉系の高等学校のカリキュラムの科目の設定と違っているが、学習指導要領との整合性を図っていききたい。

① 科目の名前が変わったものがいくつかある。

② 科目の内容は、求められる介護福祉士像に沿った形での変更になった。

③ 大きな変更 — 養成時間数

一般教養的なものを含めて現行 1,500 時間を 150 時間増やして 1,650 時間とする。

④ 内容の変更(資料 p.2~)

◇ 従来の一般教養科目(120 時間)を基礎分野とし、専門分野の基礎となるような内容にシフトした。介護福祉士として必要な資質の向上をめざし、主に人間生活の理解という内容、具体的には専門分野の基礎となる教育内容と人権尊重等々に関する内容にする。

◇ 専門科目の名前・時間数の変更。

・ 老人福祉論の 30 時間を 60 時間に変更。

・ レクリエーション指導法をレクリエーション活動援助法と名称を変更。

・ 家政学概論・栄養調理の各 30 時間は科目を統合し家政学概論 60 時間とする。

・ 医学一般は 30 時間増やし、90 時間とする。

・ 精神衛生を精神保健と名称変更(法律名称が精神保健福祉法であるから)。

・ 介護技術(演習)は基礎的演習であるが、30 時間アップする。

・ 障害形態別介護技術を形態別介護技術と名称変更すると共に 30 時間アップする。

・ 実習指導もプラス 30 時間とする。

◇ 科目の追加、強調内容および内容の変更。

・ 社会福祉概論；地域福祉および介護保険に関する内容を追加。介護給付、ケア・マネジメント、要介護認定などの細かい内容は老人福祉論で行う。

・ 老人福祉論；従来より時間数が足りないという指摘があったので 30 時間増やした。

・ リハビリテーション論；日常生活の自立支援・生活能力の維持拡大への援助を追加。

・ 社会福祉援助技術(演習)；介護保険でいうケアマネジメント、居宅介護支援、施設介護サービス計画等の内容を追加。個別的援助については、特にコミュニケーションについて強化。

・ レクリエーション活動援助法；利用者の活動を支援するということが主旨であることから名称を変更。

・ 老人・障害者の心理；高齢化がもたらす心理的影響についての内容に変更。

・ 家政学概論；バリアフリーの住環境について、特に、障害者の調理器具・食器等を研究・教育器材に加える。各学校に自由裁量を持たせ

た時間配分ができるように科目を統合。

- ・医学一般；医療と関わりの中での必要な医学知識を強化した。
- ・精神保健；資料の通り。
- ・介護概論；介護技術・形態別介護技術・介護実習；単なる介護技術の習得という事だけでなく、一連の計画に基づいた介護のプロセスを重視する。状況の把握から始まり、事前評価・介護計画の作成・実施・実施後の評価がきちんとできるようになることを目指す。更に人権及び生命の尊重等について介護技術を通じて教育していく。福祉用具については各家庭に合った用具・住宅の改造などについての内容にする。形態別介護技術は、訪問介護について特に評価したい。精神障害者・知的障害者に対する介護は一緒に何かをやっていくという内容を追加する。
- ・介護実習の内容；ホームヘルプ事業、訪問入浴サービス、住宅介護支援センターにおける同行訪問などの訪問介護実習などを必修化。以上の養成課程は基本的には来年春の養成施設入学生から適応する。

受験に必要な単位数の問題についてはまだ最終的結論は出ていない。昨年高等学校での週休二日制等々についての要望があったが、決定事項ではないが増やす方向にはない。これに関しては、平成15年の教育指導要領で調整する予定。

2 理事会からの報告

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会長 山口 祐司
資料：全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 第5回 総会資料
報告事項

- (1) 平成11年度役員の確認等（資料1）
- (2) 平成11年度加盟校報告（資料9）
146校（平成11年10月現在）昨年度比12校増
- (3) 教科「福祉」に係る現職教育等講習に関する調査研究協力者会議について
現在、来年夏休みに実施される「免許」を授与する講習の内容を検討中。1日4コマずつ、1コマ90分、全日程60コマ、福祉

に関するすべての教科(7科目)で実施予定。
協議事項（資料2～8）

- (1)～(5)については、P6と同じ。
- (6) 平成12年度第1回理事会について
平成12年5月25日午後予定
- (7) 平成12年度役員について
役員改選の年ではないが、変更になった場合は平成12年3月末迄に事務局へ連絡。
- (8) その他
「校長会」というこの会の名称を変更してはという意見もあるが、変更は困難であるから、大会の時だけの通称名を検討中。

3 全国高等学校長協会家庭部会からの報告 全国高等学校長協会家庭部会

事務局長代理 小島 和雄
資料：平成11年度家庭科教育をとりまく最近の状況

- (1) 家庭部会の現状について（資料1）
 - ・平成11年加盟校2723校（昨年より5校減）で普通部会に次いで多く、要望提出時のベースとして力強い。
 - ・福祉に関する学科設置校は146校である。
- (2) 家庭科技術検定について（資料2）
 - ・3、4級で男子の受験者が増加している。
 - ・昨年度より受験者がやや減少(2114名減)
- (3) 保育技術検定について（資料3）
 - ・受験校数が44校→65校と21校増加。

4 福祉科事務局からの報告

栃木県立真岡北陵高等学校 教諭 荒井 智子
・平成11年度加盟校について（資料9）
近隣校に声をかけ加盟校を増やして欲しい。
・会費納入は4/25までに。問い合わせは文書でお願いしたい。
・岡山大会報告書は3月刊行予定。
・福祉に関する指導案が74校より寄せられた。教科「福祉」にかかわる資料としたい。

記録 明楽 俊應（岡山県美作高）
河木 洋子（岡山県福渡高）

校長部会・総会

平成11年10月21日（木） 16:10～16:50
カルチャーホテル 4階 孔雀の間
司会進行 藤重 豊（山口県立久賀高等学校長）

- 1 開会のことば 桐原理事
(加治木女子高等学校長)
- 2 会長挨拶 山口 祐司
この総会には、今までに1番多い61名の校長先生にご参加いただいた。
福祉に関する今後の教育が非常に大切であり、校長先生方にも同じ考えで出席いただいたものと思う。
既に講演会で、矢幅先生から、文部省の現時点での動きなども説明いただき、おおよそのことはご理解いただけたのではないかと。しかし、まだまだ聞きたいことがあると思うので、忌憚のないご意見を出していただき、有意義な総会にしたい。
- 3 議長選出（本橋副会長を議長とする提案が承認される。）
- 4 議事
<報告事項>
 - (1) 平成11年度役員の確認等 (山口会長)
 - (2) 平成11年度加盟校報告 (事務局)
 - (3) 教科「福祉」に係る現職教育等講習に関する調査研究協力者会議について (山口会長)
<協議事項>
 - (1) 平成10年度事業及び決算報告 (事務局)
平成10年度監査報告 (佐々木監事)
 - (2) 平成11年度事業計画及び予算 (事務局)
年度当初の加盟校で予算(143校×5,000円)を組む。
 - (3) 規約改正について (山口会長)
 - ① 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約の第8条5に、「会長所属地区からは、新たに理事を選出できる。」という項目を加えたい(今までの申し合わせ事項であった)。
 - ② 現在も集めている会費5,000円を、第11

条に、「会費は年額5,000円とする。」という項目を条文に入れることを提案する。

- (4) 要望書について (山口会長)
 - ① 文部省に対する要望書(前文と要望事項1～7)・理事の先生には配布している。
 - ② 厚生省に対する要望書(前文と要望事項1～5)・1～5については昨年と同じ要望である(昨日理事会に矢幅先生にご出席いただいてご指導をいただいている)。
表現の細かい点については修正すべき点があるかも知れないが、新たにこの場でぜひ付け加える点などあれば発言いただきたい。(島根県 名城高校)
文部省への要望書の要望事項の1、現行において福祉科目を担当している教員に対しという文に全てのという言葉をつけ加えて、福祉科目を担当している全ての教員に対してにして欲しい。
- (5) 次期開催について (近畿地区理事)
期日・平成12年10月31日(火)～11月2日(木)
主管校・兵庫県立新宮高等学校 神戸市 中心
- (6) 平成13年開催について (山口会長)
会場・一関第二高等学校
期日・今後検討
- (7) 平成12年度第1回理事会について (山口会長)
全国のオール校長会の総会(5/24・5/25)の2日目1時半から家庭部会事務局で開催したい。
- (8) 平成12年度役員について (山口会長)
来年は改選時期ではないが、理事の先生方で転勤等がある場合、後任を選んで3月末までに事務局に連絡してほしい。
- 5 閉会のことば (桐原理事)
記録 横山喜久雄(岡山県美作高)
竹田 吉彦()

平成10年度 全国高等学校校長協会家庭部会 事業報告
福祉科高等学校長会

期 日	活 動 内 容	備 考
5月28日(木) 10:00～12:00	宮崎大会に向けて (学科主任代表者会組織について)	第1回 学科主任代表者会議 研究部・調査統計部・広報部 (家庭部会事務局会議室)
5月28日(木) 13:30～16:30	・役員の選出について ・要望書の作成について ・宮崎大会に向けて ・平成11年度開催地区について (中国・四国地区)	第1回 理事会 (家庭部会事務局会議室)
7月22日(水) 15:30～17:00	宮崎大会 第1日 第2回 理事会 「議 題」 第2回 学科主任代表者会議	宮崎大会会場 (ホテルプラザ宮崎)
7月23日(木)	宮崎大会 第2日 (総会・講演・研究協議会等)	講師 宮崎県立看護大学学長 薄井 坦子 先生
7月24日(金)	宮崎大会 第3日 (研究協議会・閉会行事等)	
11月 9日(月)	第1回 公開授業 「社会福祉制度」 指導 大橋 謙策 先生	三島高等学校(静岡県) 参加者 40名
12月22日(火)	宮崎大会報告書の刊行	A4、300部、40P (うち、写真4P)

上記のとおり報告します。

平成11年10月21日

会 長 山 口 祐 司

平成11年度 全国高等学校校長協会家庭部会 事業計画
福祉科高等学校長会

期 日	活 動 内 容	備 考
5月27日(木) 10:00～12:00	岡山大会に向けて (学科主任代表者会組織について)	第1回 学科主任代表者会議 研究部・調査統計部・広報部 (家庭部会事務局会議室)
5月27日(木) 13:30～16:30	・役員の選出について ・岡山大会に向けて ・平成12年度開催地区について (東北地区)	第1回 理事会 (家庭部会事務局会議室)
10月20日(水)	岡山大会 第1日 第2回 理事会 第2回 学科主任代表者会議	岡山大会会場 (ベル学園高等学校)
10月21日(木)	岡山大会 第2日 (総会・講演会・研究協議会等)	講師 文部省教科書調査官 矢幅清司
10月22日(金)	岡山大会 第3日 (研究協議会・閉会行事等)	
3月 日()	岡山大会報告書の刊行	A4、300部、40P (うち、写真4P)

上記のとおり提案します。

平成11年10月21日

会 長 山 口 祐 司

平成 10 年度
全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計決算書

収入決算額 ￥826,275
支出決算額 ￥663,793
差引残高 ￥162,482

上記の通り、報告致します。

1 収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	比較増減(△)額	摘要
会費	665,000	670,000	5,000	年会費5,000円×134校
繰越金	144,177	144,177	0	
雑収入	30,000	12,098	△17,902	利息(¥388)報告書売上げ等(¥11,710)
合計	839,177	826,275	△12,902	

2 支出の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	残額	摘要
総務費	313,415	255,645	57,770	
会議費	50,000	46,860	3,140	
印刷費	10,000	10,000	0	事務局校印刷費
旅費	103,415	103,415	0	事務局一人分総会派遣費
通信費	150,000	95,370	54,630	
事業費	480,000	408,148	71,852	
報告書印刷費	400,000	339,000	61,000	A4版 300部
総会補助費	20,000	20,000	0	
調査研究補助費	30,000	30,000	0	
雑費	30,000	19,148	10,852	封筒印刷、写真
予備費	45,762	0	45,762	
予備費	45,762	0	45,762	
合計	839,177	663,793	175,384	

上記の通り、報告いたします。

平成 11 年 5 月 27 日

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会 11 年度会長 本橋恒雄

監査の結果、適正に処理され相違ないことを認めます。

平成 11 年 5 月 10 日

福祉科高等学校長会 監事 佐々木重昭

平成 11 年度
全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計予算書

1 収入の部 (単位:円)

科目	予算額	前年度決算額	比較増減(△)額	摘要
会費	715,000	665,000	50,000	年会費5,000円×143校
繰越金	162,482	144,177	18,305	
雑収入	10,000	30,000	△20,000	
合計	887,482	839,177	48,305	

2 支出の部 (単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)額	摘要
総務費	313,415	313,415	0	
会議費	50,000	50,000	0	
印刷費	10,000	10,000	0	事務局校印刷費
旅費	103,415	103,415	0	事務局一人分総会派遣費
通信費	150,000	150,000	0	
事業費	480,000	480,000	0	
報告書印刷費	400,000	400,000	0	
総会補助費	20,000	20,000	0	
調査研究補助費	30,000	30,000	0	
雑費	30,000	30,000	0	封筒印刷、写真
予備費	94,067	45,762	48,305	
予備費	94,067	45,762	48,305	
合計	887,482	839,177	48,305	

上記の通り、提案いたします。

平成 11 年 10 月 21 日

全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会 会長 山口祐司

校長部会・研究協議会

平成 11 年 10 月 21 日 (木) 16:50 ~ 17:50

平成 11 年 10 月 22 日 (金) 9:00 ~ 10:30

カルチャーホテル 4階 孔雀の間

指導助言 矢幅 清司 (文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官)

喜田川典秀 (厚生省社会・援護局施設人材課福祉人材確保
対策室マンパワー企画係長 資格・試験係長)

司会進行 藤重 豊 (山口県立久賀高等学校長)

桐原 祥二 (鹿児島県加治木女子高等学校長)

【研究協議テーマ】 高等学校福祉教育の展望

協議題

- 1 教科福祉の教員養成について
- 2 介護福祉士の資格・試験の時期について
- 3 ホームヘルパーの養成について
- 4 進学の問題
- 5 就職の問題
- 6 指導助言

1 教科福祉の教員の養成について (埼玉県立不動岡誠和高・本橋)

福祉の教員の認定講習が受けられる教科が家庭・看護・公民の3教科だけで、それ以外の教科の先生は資格認定試験を受けなくてはならないようになりそうだ。いままで実績のある先生方は、40代ないし50代である。50半ばにして勉強して合格してもほとんどメリットがない。

教員採用以来特殊教育畑ばかりに携わって来た先生方も大勢いる。その先生も理科なり数学の免許を持っている。他の免許を持った福祉のスペシャリストがあってもいいのではないか。

(司会者：藤重)

今は、免許証を拡大解釈するべきだという方向のようだが、そういう考え方に反対の意見はないか。

調査官に質問したいが、福祉科の立ち上げ以来教えてきた理科や数学の先生は経験も実力も十分だと言う意見だが、福祉の免許が出来て、免許が手に入らなかった場合、教えることが出来るのか、出来ないか。

(文部省：矢幅先生)

違う免許でも教えていけるし、免許を取ってもメリットが無いのではないかというお話だが、

教員は毎年同じ事を教えている訳でなく、日々研修をしているのではないだろうか。その日々研修をしている部分においてこういう講習を位置づけたらどうか、自分は福祉を教え、その教育研修の1つとして講習を受け、その結果免許が取れるというパターンがあってもいいのではないか。

経験年数が豊富な先生がいる。その場合、その豊富な経験部分を教員資格認定試験で試し、認定してもらうという方法もあっていい。

文部省では、福祉の免許が出来れば、福祉の先生が教えるのが当たり前としかお答えできない。

臨時免許は、あくまでもそういう方が採用できなかった場合に限って出されるもので、最初に臨時免許ありきで採用するのは本末転倒である。免許を持っている人が教えるのが原則で、そういう方がいない場合に臨免で採用するので、長年にわたってという訳にはいかない。次年度に県が福祉の免許を持った人を採用しなくてはならなくなる。

(司会：藤重)

原則的には免許がなければ教えることができないということだと思う。この問題は各県や学校によって、いろいろなものが絡んでくるのでこの辺でやめておきたい。人事のことについては各県がそれぞれ対応することになるのではないか。

(山口会長)

認定試験が認められている教科は少ない。福祉で認定試験をやるという事は、法整備をして

認定試験で免許状を与えるということが認められないと福祉の認定試験が実施できないということかと思う。現段階では、まだ法整備がされていないので、ぜひ福祉も認定試験の1科目に入れてもらいたいということではないのか。

(文部省：矢幅先生)

現在ではまだ認められていない。講習認定だけでは8割の人しか取れず、後2割の人が切り捨てになってしまうので2割の人の救済処置ということで、認定試験に福祉を加えてもらえる方向で働きかけをしている。その方向で今国会が終われば、今年中にははっきりすると思う。

(司会：藤重)

次に、時間が少なくなったので、介護福祉士の資格の問題、ホームヘルパー養成の問題、施設実習のことも絡めてお願いしたい。

(群馬県立万場高等学校・長谷川)

平成9年から普通科の中に福祉サービスコースを設けコース制を取り入れた。ホームヘルパー2級養成研修の認定を受け、施設の実習が多くなり、各種専修学校と競合することが増えた。各種専修学校では、生徒がお礼を7~800円支払っていると聞いた。本校では始まったばかりで、ほんの手みやげでお願いしている。他校ではどんな状態か知りたい。

(北海道立置戸高・佐藤)

北海道は広くて生徒の出身は30町村に及ぶが、施設実習については出身の町村の施設に依頼することによってスムーズに運んでいる。

費用については、1日1600円位になっている。専門学校では5000円位払っているところもあるが、今のところ施設ではお金についてはこだわっていない。

(埼玉県立不動岡誠和高)

私の学校では1年生の施設見学実習・2年生では前・後期2週間ずつの実習・3年生の2週間の実習をしているが、いずれも1日生徒1人当たり1500円を支払っている。

(司会：藤重)

全国的な動向を伺いたい。

(文部省：矢幅先生)

実習費については、全国の校長会で2年前に調べたところでは、多いところで1日2500円ぐ

らいで、1日1000円程度が平均であったと思う。その分担が公費なのか自費なのか折半なのかについては県の事情でいろいろあった。おみやげ程度でいいという施設については、好意に甘えて、そのかわりいい生徒を社会に送り出していくという、社会還元の意味を出していけばいいのではないか。

(厚生省：喜田川先生)

基本的には、国の方でいくらしなさいという指導は出来ない。国から実習施設と実習施設になりうる施設に対して通知を出して、実習を受け入れるようにして欲しいという意見がある。なるべく国の関与をなくそうという規制緩和の時代なので、あまり無理にいけない。

実習の受け入れについて言うと、施設から逆によく聞くのは、実習生として受け入れたが、きちっとした教育がされていないため受け入れたくないという話も多い。学校と施設で、実習についてどうやっていくのか、打ち合わせが出来ていないことがトラブルの元で、第1の原因でもある。

高校で今回のカリキュラムの変更に伴っては、変えることはないが今後どうなるかについては分からない。今回の改正で議論があったことは、施設の実習について誰が責任を負うのかということ。今までは、やればいいという発想が養成施設の中でもあり、週2回巡回指導をして欲しいとしか言っていない。しかし、それで十分な実習ができるのか、施設に余分な負担をかけているのではないか、学校に全てをやらせるということになれば、先生方に負担をかけることになる。でもそういう教育を目指そうとされている学校なので、逆にどうしていったらいいのか、考えて欲しい。

(香川県立飯山高・三島)

介護福祉士は毎年養成され、このペースで行くと10年、あるいは5~6年でかなりの数が揃う、もう揃ったからと高校卒業では国家試験を受けられなくなるようなことも想像できる(今の衛生看護科のあり方を見て感じられる)が、長期的な見通しがわかれば、教えて欲しい。

(厚生省：喜田川先生)

介護福祉士と看護婦の養成では決定的違いが

ある。看護の養成については必要量が決められていて、需給計画が決まっている。看護の業務に就くには准看の資格がいる。そこで養成の人数の決定ができる。介護福祉士については、16万7千人（今年の8月末）養成施設で2万人ずつ、国家試験では昨年は2万人、今年1月の試験には6万人の応募があり、単純に半分受かるとすると3万人であり、養成施設と合わせると、平成11年度には5万人養成できる。一方、平成22年までに高齢者の必要介護者数は80万人であり、このままでいくと、その6割くらいは有資格者になるが、無資格でも介護の仕事はできる。需給計画は立てていない。

（司会）

「福祉科の生徒の進路について」各校の様子を話していただきたい。

（置戸高）

生徒の就職先を探す場合、実際には求人はほとんど来ない。たとえ求人があっても、今年度採用のあった所については来年度の採用はないという状態である。従って、次々と新しい職場を開拓する必要があるが、そのあたりの工夫など、各校の対応を知りたい。

（岡山県美作高・上田）

本校では施設実習先を25ヶ所ほど確保しているが、実習期間中は校長・教頭・その他施設コースの教員が足繁く訪問している。施設との関係も親密になり、直接求人をいただいたり、卒業後の採用を約束される生徒もいる。実際には就職希望者が1/3程度ということもあり、今のところうまく行っている。校長・教頭が率先して足を運び開拓に努めることが大切である。

（置戸高）

本校でも、道庁の保健福祉部を初め、福祉協議会や人材センター、加えて施設長会議にも頻りに足を運んでいる。又、インターネットも利用して新しい情報を引き出している。

（不動岡誠和高）

本校では出口の確保が大変大きな問題である。実際には看護の方へ進む生徒が多いが、これは看護と介護を分業で行う大病院が増えた為である。特養や老健などの施設では採用はほとんどないが、これは介護保険の導入により、施設側

が運営面での不安をかかえている事や、正規のルートで求人を行った場合に応募者が多すぎて対応しきれない為等の理由が考えられる。厚生省への希望として、国家資格を持った者を優遇する様な規定を設けて欲しい。

（山口県中村女子高・五十部）

今年の場合、介護保険が求人に災いしているのは確かである。本校は専攻科を持っているが、他校同様就職は厳しい状況である。

（置戸高）

専攻科のメリットはどこにあるのか。介護福祉士の資格を得るためには、専攻科の場合も国家試験を受験しなければならないと聞いている。

（中村女子高）

本校の専攻科は2年課程で、卒業と同時に介護福祉士とホームヘルパー1級の資格が与えられる。ただ、高校卒業時に国家試験に合格すれば、資格の面では専攻科に進むメリットはない。

（鹿児島県鳳凰高・西）

就職に関して言えば、国家試験の時期的なものをもう少し早目にしてはどうか。求人の時点で合否が決定していれば、施設側も採用を決めやすいのではないかと。

（山口会長）

厚生省への要望事項の中にも「国家試験の結果が2月中にわかるくらいにして欲しい」という項目を入れている。ただ、高校生という事を考えた時、9月頃までの間に、介護福祉士としての技術や人間性等を養成することができるのか。最後にその辺のところを、文部省の矢幅先生にお伺いしたい。

（福井県啓新高・荻原）

本校としては、今後考えなければならないのは進学指導である。介護福祉士の資格をできるだけ取らせるということが学校の方針であるが、私学であるため、中学校側もその実績を重要視する。又、出口の問題についても非常に関心を持っている。中学校は信頼関係に基づいて生徒を送ってくれる為、中途半端なことは出来ない。就職も問題であるが、進学についても大きな問題である。推薦枠もあるが、専門教科が非常に多いため、進学の為の一般教科を勉強する時間も取りにくい現実がある。進学指導についてお

聞きしたい。

（司会）

4年制大学の推薦枠の拡大ということもあるが、現実問題として、一般教科の学力不足という事もあって、難しい。各校でそれぞれの方針に従って努力していると思うので、今後も個々の学校の問題として取り組んで欲しい。

次に「福祉科の課題」について進めて行きたい。入学時より国家試験対策を最優先した、非常にゆとりのない教育をしている。「心を育てる」ということが実際にはできていない様に思える。感動もゆとりもない歪んだ人間ができるのではないかと心配している。各校の意見を聞きたい。

（愛知県立古知野高・小田）

ベル学園の取り組みを見て「目から鱗」という感じがした。人間科学論のような取り組みも必要と考える。

（神奈川県立津久井高・立山）

本来は資格を取得することが目的ではなく、特にコースの場合は教養としての福祉でよいと思う。従って、そこから興味を持って専門学校や大学に進み、より専門的に学んで行けばよいと考える。付け加えて、今普通科のコースは非常に中途半端な立場に立っている。教科「福祉」ができることで、より専門的な高いレベルの資質が要求されるであろうし、コースでは国語、英語、理科などの教員が福祉的精神を持って指導し、成り立って来たところが多い。それが出来なくなるということは、コースはますます置いて行かれる。最後に、国家試験の受験資格38単位は、全体がゆとりがある方向へ行く中であって、やはり逆行である。

矢幅先生が来場。矢幅先生への質問を受ける。

（置戸高）

教員定数について、今後福祉科の教員数の加配等を考えているのかどうか伺いたい。

（京都府福知山淑徳高・山口）

福祉科の免許状の講習内容について、できれば具体的に伺いたい。また、教養の福祉から国家資格取得まで、福祉は幅広い分野になるが、統一性とかお互いの関連について何か考えはあるのか伺いたい。

（文部省・矢幅先生）

教員定数の加配については、文部省が決める前にまず各学校の要望を校長会でまとめて欲しい。私見であるが、学科としては5～6名、そのうち家庭科1名、看護1名は必要ではないかと考える。

介護福祉士の国家試験を受ける場合には、家庭、看護、福祉の3分野が必要になる。この3分野で福祉学科ができる。しかし、教科「福祉」の免許はそのうち福祉分野のみを教える資格である。よって講習内容は福祉に関するものだけである。

教養から専門資格までとれる幅広い分野として福祉があり、そのあり方がまちまちであるという意見だが、設置者が設置理由を設定して、「コースでやる」とか「資格を取らせたい」など、各々の学校の実状、地域の状況を判断して設置されているものと理解しているので、あえて否定する必要もないと考える。

ただし、資格を与えることについてはそれなりに責任を持って欲しい。ホームヘルパーの場合、無理に1級でなくても、高校生に合わせて2級あるいは3級でもよい。周囲の評価が悪い場合には、今後は資格の取り消しもありうる。そして全国の高校の福祉科が全て同じ目で見られるとしたら、高校生の受験資格の打ち切りにもつながりかねない。資格を与えるだけの各学校の指導体制を作って欲しい。

国家試験の発表が卒業後の為、就職等には活用できないということだが、実際に就職に間に合わせるためには7月ぐらいにする必要がある。それで良いのか。今まで3年間の指導でやっと合格できたものを、2年3ヶ月でできるのか。実は第1回の国家試験が終わった時点で、第2回目の試験を9月にするという厚生省案が文部省に届いた。そして9月になる場合は、高校生は未熟なので受験資格をはずすと直接言われた記録が残っている。期日を早めることで、逆に高校生の不利益になることも考えられる。これは私見であるが、現在のところ大幅な変更は考えられない。

記録 横山喜久雄（岡山県美作高）

竹田 吉彦（岡山県美作高）

主任等の部会・研究協議会
〔学科設置校分科会〕

平成 11 年 10 月 21 日 (木) 16:10 ~ 17:50

平成 11 年 10 月 22 日 (金) 9:00 ~ 10:30

カルチャーホテル 6階 エメラルド

指導助言 矢 幅 清 司 (文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官)
司 会 池 田 延 己 (北海道函館大妻高等学校)
嶋 田 麻知代 (愛知県立古知野高等学校)

【テーマ 1 施設実習の効果的指導法】

発表者 愛知県立高浜高等学校
教諭 鋤 柄 由美子

1 本校の概要

昭和 43 年 4 月に愛知県立碧南高等学校の分校から全日制普通科・家政科併置の新設校として分離独立し、一昨年創立 30 周年を迎えた。現在は、1 学年に普通科 5 学級 (定員 200 名)、福祉科 1 学級 (定員 40 名) が設置され、全校あわせて 18 学級である。

平成 7 年 4 月には時代の要請と地元の期待に応え、愛知県初の福祉科が設置された。福祉科は福祉に関する専門的な知識と技術を身につけ、社会福祉に貢献できる人材を育成することと、介護福祉士の資格取得を目指すことを目標として設置されたものである。今年度 3 月には、3 期生を老人介護の現場に送り出す予定である。

2 福祉科の概要

(1) 学習内容 (専門科目)

数字は、単位数を表す

第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
家庭一般 2	家庭一般 2	被服 2
社会福祉基礎 2	老人介護 3	食物 2
老人介護 2	社会福祉実習 3	家庭情報処理 2
看護基礎医学 2	社会福祉援助技術 2	社会福祉実習 3
基礎看護 2	看護基礎医学 3	社会福祉制度 2
	基礎看護 2	社会福祉援助技術 2
		社会福祉演習 2
		(選択)社会福祉演習 2

(2) 特色

- ア) 介護福祉士の資格取得を目指した徹底指導
- イ) ホームヘルパー 1 級課程修了証書取得
- ウ) 最新機器を導入した施設・設備における実習
- エ) 医療の専門家による指導 (看護に関する科目)
看護基礎医学は年間を通して、高浜市立病院長から直接指導を受ける。

3 施設実習について

(1) 施設実習の概要

	第 2 学年	第 3 学年
実習期間	1 1 月 (2 週間)	6 月 (2 週間)
実習施設	11 施設 養護老人ホーム 1 特別養護老人ホーム 7 老人保健施設 3	9 施設 特別養護老人ホーム 6 老人保健施設 3
実習目標	①老人福祉施設・老人保健施設の業務内容と役割を知る。 ②利用者が必要とする基本的な日常生活の援助を体験する。	①老人福祉施設・老人保健施設の組織運営を理解し、チームの一員としての介護活動を行う。 ②利用者を総合的に理解し、的確な介護のし方を把握して、日常生活の援助を体験する。

(2) 効果的指導のポイント

- ア) 生徒の施設実習に対する気運を高める。
- イ) 各年次の施設実習の目標及び実習内容に対応できるための知識・技術を習熟させる。
- ウ) 事前打ち合わせや事後挨拶を有効に活用し、実習施設との連携を密にする。

(3) 本校福祉科における実践

ア) 施設実習までの予備指導 (福祉科生徒としての自覚、自主性を育てる)

入 学 以 前: 合格者オリエンテーションを保護者に実施

入 学 時: 福祉科オリエンテーションを生徒に実施

1・2 年次: 専門教科における指導

講義、実習、社会人講師による講演会 (5 回ほど)

各行事への参加

ボランティア活動 (地域高齢者と障害者とのふれ合い)

イ) 事前指導 (施設実習に関わる老人介護等の知識や技術指導以外のもの)

・「施設実習の要項」の指導=何を目的に何をどのようにさせるか

実習目標

実習内容

実習期間・実習時間

実習課程

・「施設実習ファイル」の作成指導=実習への自覚を高める

作文「施設実習に向けて」

「実習生個人票」

「施設の概要」

日誌・報告書等

・作法等の指導

挨拶および言葉遣い

清掃の仕方

ウ) 事後指導

・施設実習報告会=3 年次に向けて、生徒がそれぞれどんなことをやって、どんなことを思っ
て帰ったか。

・施設実習事後講演会 (2 年次のみ)=福祉系の専門学校の先生より

・日誌等の書き方 (2 年次のみ)

・知識や技術の定着指導

・介護福祉士としての資質の育成

エ) 実習過程

- ・事前打ち合わせ（施設実習の1週間前に実習施設で行う。）
 - ・施設実習 実習生は毎朝実習日誌を指導者に提出する。
 - ・事後挨拶（終わった翌週に行う。）
- 実習生は、実習日誌・実習報告書を受け取り、指導を受ける。

注：2年次のみ、夏季休業中において実習施設での事前ボランティアを行う。

オ) 職員の実習施設訪問

4月	当年度実習依頼・承諾書受領、次年度の実習依頼・内諾書受領
6月	3年生施設実習の事前挨拶・打ち合わせ 3年生施設実習の巡回指導（2回） 3年生施設実習の事後挨拶、2年生施設実習の承諾確認
11月	2年生施設実習の事前挨拶・打ち合わせ 2年生施設実習の巡回指導（3回） 2年生施設実習の事後挨拶
3月	次年度の実習内諾の確認、次年度の実習依頼

(4) 今後の課題

- ア) 実習要項の継続的研究
- イ) 事前指導・事後指導の内容と方法の継続的研究
- ウ) 巡回指導についての検討
- エ) 実習施設の恒常的確保

【テーマ 2 国家試験対策と指導】

発表者 山形県立山辺高等学校
教諭 黒 圭 子

1 はじめに

本校は本年3月に第一期生を卒業させたばかりの「福祉科」を設置して4年目になる学校である。国家試験対策に関しては、先生方からご指導いただいたことを無我夢中でやってきた結果介護福祉士合格率97.4%、39名受験、38名合格した。一期生がどのように学んできたかを中心に卒業までの指導の過程をたどってみたい。

2 学校概要

昭和23年定時制の課程として開校され、昭和35年全日制の課程家庭科設置、昭和42年衛生看護科、同45年専攻科（衛生看護科）が設置、平成8年家政科を改編し、県内唯一の福祉科として設置される。家庭に関する学科に所属し、家庭クラブにも加盟している。

学区は県全域で公立校では本校一校のみ。山形市に隣接し、地の利もよく県の真ん中に位置する。寮もあり、現在46名の寮生がいる。

取得資格は介護福祉士国家試験受験資格、ホームヘルパー1級、家庭科技術検定3級である。

3 福祉科目標

福祉介護に関する専門的な知識と技術の習得を通して、豊かな人間性を育てるとともに、社会福祉の向上に貢献できる有為な人材を育成しあわせて介護福祉士の資格を取得させる。

4 一期生について

まず、全員受験の意識づけに重点をおき指導。その結果、前述の合格率をあげた。

進路状況は、進学、福祉系就職はほぼ同数で両方の資格をもって将来就職するために、看護系に進学する者もいる。

(1) 指導状況について

①第1学年では専門科目について教員2名(T・T)であたる。家庭一般は具体的に実習を2(被服・食物)にわけ、20名を1名で担当。家庭情報処理についてもマッキントッシュを1人1台使い2名の教員が担当。基礎看護については、本校は衛生看護科が併設され恵まれているので、看護婦資格を持つ教員2名で担当。校外研修は、点字図書館の見学、夏休みの宿題として市の福祉協議会に行きレポート提出とする。

②第2学年では被服は2名で担当、看護基礎医学は非常勤講師として医師に依頼。内科、リハビリ科、精神科の3名の医師に交替で依頼。老人介護は、介護福祉士の資格を持った短大助教授に、社会福祉援助技術は同じく資格を持った特別養護老人ホームの荘長さんに、非常勤講師としてお願いする。校外研修は、附属養護学校身体障害者療護施設の1日見学・交流。施設実習としてホームヘルパー同行訪問、小規模作業所・宅老所での一緒にの作業、実習、コミュニケーション。特別養護老人ホーム(2週間)。

国家試験に対する「意識の高揚」として夏季冬季休業中の4日間講習も実施。

③第3学年では、念願の社会福祉士の資格を持ち、特別養護老人ホームの指導員経験者の採用が実現。社会福祉制度に非常勤講師として県庁職員の方数名に依頼、新データ確保に努める。赤十字救急法講習(4日間)を行い日本赤十字救急法救急員の資格を取得する。施設実習として特別養護老人ホーム・身体障害者寮護施設(4週間)、知的障害者援護施設(2泊3日)、夏季冬季休業中の4日間講習も実施。10月中旬より問題集中心の月～金、50分の放課後講習(過去問、模擬の解答中心)も本校教員で実施。2月の一次合格発表後、生徒に自由登校期間も実習室が空いている時間は解放、卒業式後も登校し練習。

④その他の取り組みとして福祉科担当者会を週1時間開く。2学期末テストまで普通の授業を行い、その後は受験用の授業内容とし、3学期は復習とする。

5 終わりに

本校の第一期生は、県下で初めての福祉科であるため、意識の高い生徒が集まったこと。学校全体で福祉科をバックアップしていることがよい結果につながったと考えられる。また生徒も一期生としてのプレッシャーを感じながらもクラス目標を「全員合格」という高い所にもっていき、自然に生徒間で教え合う雰囲気生まれたことも良かった点である。

平成11年度に、福祉科担当教員が1名増員となり、福祉科教員2名、家庭科教員1名で担当している。

< 質 疑 応 答 >

高浜高等学校への質問

- Q：社会人講師の位置付け、時間、コーディネイトのノウハウ
 A：特色ある学校作りの中、時期を見計らって2年生で行い後は1年生の科目に位置付け
 Q：契約書等について（内容も）
 A：保護者・生徒連名で氏名、印鑑、保護者記入「責任は一切引き受けます」自覚と意識づけ
 Q：インスタントシニア購入について
 A：学校セット5万～7万、※挙手21校使用
 Q：施設実習先の生徒の割り振りについて
 A：県からの委託料。交通費は生徒負担定期優先

山辺高等学校への質問

- Q：マッキントッシュの使用校について※挙手0
 Q：使用教科書について
 A：一期生は養成講座との併用、二期生は校長会編集教科書のみ
 ※挙手養成講座31校、ミックス20校、学ぶシリーズ17校、その他1校（一ツ橋）
 Q：社会福祉制度（県庁職員）資料、教科書は？
 A：資料は県庁側で担当課は長寿社会課等2時間。教科書は学ぶシリーズを中心に
 Q：非常勤講師の謝礼は（特に医師）
 A：看護料、専攻科に準ずる
 司会 具体的に発表を（参加者へ）
 ①医師1時間5,500円、看護婦3,600円前後
 ②医大、研修医5,500円、県の校医3,900円
 看護婦2,900円
 Q：外部講師の授業をうまく成功させる工夫は？
 A：教員1人を時間外配置、試験も採点も学校側

調査官 矢幅清司氏への質問

- Q：福祉と福祉実習の講習内容の違いは？
 A：教員としての「福祉」のみの免許を要請実習助手の配置は将来少なくして行く方向
 Q：養護学校免許を福祉の免許への読み替えは？
 進路指導について社会福祉系、免許養成系？

- A：①養護学校の免許はあくまでも養護学校で土台はほぼ同じであるが違う部分が多々
 ②文部省側の指針は現在は特になし。
 大学側が個々に判断
 Q：来年夏より認定講習について県教委より
 A：希望調査ありの学校は ※挙手…10校
 Q：新教育課程と国家試験の科目名に乖離があるのでは？（奈良天理）
 A：国試対策については現状でOK、福祉6科目を網羅されていればOK。平成15年度新科目改定についてはまず試行する段階である。
 Q：卒業後の進路保証について
 A：3大臣（文部省・厚生省・労働省）による共同通知を出している。よりよい人材養成への先生方の取り組みを願う。
 Q：学校五日制に伴う単位数見直しについて
 A：校長会を通じて意向を出して欲しい。
 現在の合格率を維持し、人間性を高める方向。
 ※厚生省は高校生にあまり好意をもっていないのでレベルをあげていく。32～34の間で校長会として要請。年内にも動く方針(司会)

その他の質問

- Q：基礎看護の講義について態勢など（長野千曲）
 A：公民1人、看護2名（松山・上南）
 今年度40名を看護、情報半々（真岡・北陵）
 20名以上を半々10名実習
 10名ビデオ、プリント、理論（徳島・城西）

司会 校外実習についての質問

- Q：授業内でホームヘルパーをとらせているか謝礼の問題、欠席の扱い方（補講を含む）
 A：※事務局調べの実習費は1日当たり上限2,500円～下は菓子程度平均1日1,000円
 介護保険、専門学校等のからみで金銭面で断られたら校長会を通して厚生省に申し出て欲しい。
 同行訪問については事務局調べはなし。
 菓子折り（函館・大妻）

1人当たり1日400円（陽明）		
1日当たり1,000円（東奥）		
1日当たり1,500円、契約書（北陵）		
※挙手	ホームヘルパー	訪問看護
自己負担	17	6
県より（県費）	15	6
なし	10	11

Q：授業の中での取り扱いについて
 A：ホームヘルパー取得可能校※挙手…多数
 普通の授業の中に含めている（久慈・農林）
 同、同行については事後事前で個々に指導（不動岡・誠和）
 同、カリキュラム表に入れる（大野・東）
 ※長寿開発センター発行使用校…4校

司会 ホームヘルパーにもどる。

- Q：実習欠席について
 A：※挙手 補講する23校、資格を与えない3校
 Q：実習態度を含め遅刻等の取り扱い補講など（川崎）
 A：欠席の理由、診断書と補講願い、教科会議、校長印で補講。（茨城）
 ※挙手 原則として受講者全員に与える…全校

欠席授業態度で与えない
 場合もある…22校

司会 施設実習について毎年恒例の質問です。

- Q：巡回指導について
 A※挙手 1日1回…過半数 2日1回…3校
 3日1回…13校 1週間1回…11校
 Q：実習費の謝礼について
 A：※挙手 生徒負担…17校 県費…25校
 謝礼なし…1校
 Q：交通手段について
 A：※挙手 学校…7校 直接…残り全
 Q：実習欠席の生徒について
 A：文部省関係では現場実習に単位不必要
 学校サイドでは単位認定に関わってくる。
 Q：実習欠席（精神的）フォローなど
 A：心の病 施設を替えて成功。施設への事前

訪問後の生徒との話し合い（八戸）
 Q：1年生の1日見学の在り方について
 A：生徒のかかわりかたを事前指導する

☆厚生省について

- Q：ホームヘルパー1級と介護実習は異なる施設に行く必要があるか。
 A：必要ある
 Q：施設実習時における実習側への指導は？
 A：学校と施設との話し合い
 Q：専門学校への資格の与え方について
 A：養成学校へは統一試験あり、レベルは低い
 ☆国家試験について

- Q：合格率の高め方、補修への取り組みは？
 低い問題点、入学者の資質のクリアは？
 A：学校説明会、見学会で意識づけと1年次に福祉の心を育てる授業（山辺）
 ※挙手 条件（評定）の提示…5校

☆施設実習について（司会）

- ・健康診断は各施設で対応
- ・新しい教科書名→告示
- ・校外実習 ※挙手
 1年次…9校
 2年次…1週間3校、2週間…残り全
 3年次…2週間21校、3週間…15校
 4週間…9校
- ・ボランティアについては個人で問い合わせをお願いしたい

記録 斎藤 雅子（岡山県立倉敷中央高）
 橋本 良栄（岡山県立倉敷中央高）
 浅野 純子（岡山県立倉敷中央高）

コース・総合学科・その他の学科等設置校分科会

平成 11 年 10 月 21 日 (木) 16:15 ~ 17:50

平成 11 年 10 月 22 日 (金) 9:00 ~ 10:30

カルチャーホテル 6階 ルビー

司会進行 高橋 恵里香 (岩手県立一関第二高等学校)

加賀谷 恵子 (富山県立砺波女子高等学校)

【テーマ 1 普通科福祉コースの現状と問題点】

発表者 千葉県立御宿高等学校

教諭 丸 ひさ子

はじめに

御宿町は県南東部に位置する人口約 8,000 人の観光・漁業の町である。本校は昭和 3 年に組合立の高等女学校として開校したが、平成 6 年学科改編により家政科単独校から普通科 2 クラス、生活デザイン科 1 クラス編成の学校として、校名を変更し今日に至る。地域唯一の高等学校であり、学校設立の経緯から近隣市町の支援体制も強固である。

1 学校の概況

平成 6 年、普通科の選択コースとして福祉教養コースと普通コースが設置され、3 年次よりコースに分かれる。2 年次は全員が社会福祉基礎 2 単位を履修、福祉教養コースは社会福祉演習 4 単位、被服 2 単位、食物 2 単位、保育 2 単位を履修し、卒業時にホームヘルパー養成研修 2 級課程修了書が授与される。このコース選択者は毎年 15 名程度、学年の約 1/3 である。

2 学習内容

(1) 2 年次

① 講義内容

教科書 (高校生が学ぶ社会福祉シリーズ第 1 巻 社会福祉基礎) 中心の学習

② 実習内容

基礎的な介護実習 (食事介助、手指の洗浄・消毒、清拭など 9 項目)

③ 校外実習

特別養護老人ホーム 1 日実習 (希望者のみ夏季休業中に実施)

(2) 3 年次

① 講義内容

教科書 (ホームヘルパー 2 級課程養成研修テキスト) 中心の学習

② 実習内容

実践的な介護実習 (バイタルサインのチェック、おむつの当て方、尿便器の当て方など 18 項目)

③ 校外実習

ホームヘルパー同行実習 2 日

特別養護老人ホーム施設介護実習 2 日

デイサービスセンター施設実習 1 日

老人保健施設実習 1 日

(夏季休業中に実施)

(3) 卒業後の進路

高校での学習を深める、介護福祉士を目指す等の目的で福祉専門学校への進学者が半数を占める。今年度は看護を目指す者がいる。

(4) 問題点と今後の課題

① 授業時間数について

平成 15 年度にむけ、福祉の科目選定と教育課程の編成を検討していきたい。現在の社会福祉演習 4 単位を、ケア計画等の問題解決的・実践的能力を養うために 6 単位で確保したいと考えているが、増加単位の実現は厳しい状況にある。

② 教員の確保について

指導には家庭科教員 1 名が当たることになっているが、今年度は引継ぎのため二人配置となった。渉外と生徒指導充実の面から校外実習を考えると複数配置が望ましい。

③ 校外実習について

今年度より 3 年次の実習日数を 2 日増やした。実習は生徒への教育効果も高く、来年度はデイサービスセンター、老人保健施設における実習を各 3 日にする予定で検討している。しかし、夏季休業中の実習が多くなるため、2 年次へ特別養護老人ホーム 3 日間の実習を移すことを検討している。

おわりに

調理実習、被服実習等も数多く指導計画に組んで行っているが、生徒の家事援助力の不足を感じている。今後も校内の実習で実力を養成していきたいと考えている。

【テーマ 2 福祉実習について - 福知山淑徳高校の場合 -】

発表者 京都府福知山淑徳高等学校

教諭 渡辺 みどり

はじめに

福知山市は京都府北部に位置する観光と農商業の小都市である。平成 6 年に保育科に福祉コース (介護福祉士国家試験受験可) を設置、9 年には魅力ある学校を目指し食物科と介護福祉系列を含む 4 系列の総合学科を置く。市内に高校 7 校があり生徒募集に苦慮している。

1 学校の概要

総合学科、食物科、専攻科併設の 450 人規模の学校である。目的意識不足の生徒に専門的技術の習得や資格取得によって自信をもたせ、社会に送り出すことを目指した教育をしている。進学 4 割、就職 6 割の進路状況である。

2 福祉実習について

(1) 福祉実習の概要

① 1 年次

「産業社会と人間」に老人福祉施設見学と、希望者の夏季休業中 3 日程度のボランティア実習を設定。謝金なし。

② 2 年次

4 単位 (理論・実技②、施設実習②) 理論等は身体介助で社会人講師が担当。実習は 1 日体験

実習（6月中旬に1施設に3名程度割当て、教員送迎には今年度より保険で対応）と夏季施設実習（通所可能な施設へ10日以上）を計画。謝金は一人当たり5,000円/月。

③3年次

2単位（理論・実技①、施設実習①）施設実習は夏季施設実習（通所可能な施設へ5日以上）を計画。謝金は一人当たり3,000円/月。

(2) 夏季施設実習の流れ

- ①説明会・保護者への連絡
- ②生徒による実習施設調べと報告
- ③担当者による実習打診と期間決定
- ④依頼書類等の発送
- ⑤承諾書の受取と生徒による事前オリエンテーションの依頼
- ⑥校内実習前オリエンテーション
 - ・実習の目的確認と諸注意等
 - ・保菌検査
- ⑦実習先オリエンテーション
- ⑧現場実習
- ⑨礼状送付
- ⑩実習記録、評価表による個人指導
- ⑪体験発表会

(3) その他

- ①保育技術検定の「家庭看護」4～1級受検
- ②普通救命（士）講習の受講

(4) 問題点・課題等

- ①介護保険にかかわる高校生の実習受け入れ問題
施設行事へのボランティア参加や交流会、実習期間中の指導教員の施設訪問等機会を見つけて関係作りを図っている。
- ②実習時期の集中
夏季休業中に集中、施設も広範囲にわたる。
- ③病気その他疾病感染傷害対策
生徒には保菌検査と学校保健、入所者へはインターシップ保険で対応している。

おわりに

実習時期や疾病対策等について、他校はどのような取り組みで実施されているのか、参考となるお話を伺いたい。

質疑応答 1

- Q：校外実習の評価はどうしているのか。
(釧路星園)
- A：校内は実技テスト（満点まで行う）とレポート提出及び筆記試験で行う。校外実習はヘルパー研修のためのもので評価しない。
(御宿)
- Q：3級ヘルパー養成研修事業は家庭科教員のみ講師では許可されなかったが、外部講師等の枠はあるのか。
(鳴門第一)
- A：介護福祉士等の資格をもった講師が必要である。本校は看護婦や福祉の研修を受けた教員が授業担当者にいるために認められたと考えている。
(御宿)
- Q：実習前オリエンテーションは全ての施設の指導員が行うのか。
(尽誠学園)
- A：実習委託をしている施設の職員に依頼する。
(福知山淑徳)

Q：系列なしの生徒が履修しないか。（室戸）

A：履修するが、選択前に担任対応で意識づけをする。
(福知山淑徳)

Q：施設実習にかかる交通費が問題となっている。実習費から補助を行うと、納入額より多くなる場合もあるのだが。（神埼清明）

A：実習費は謝礼、保菌検査、インターシップ保険、テキスト代とし、施設が近距離にあるため交通費は個人負担としている。
(福知山淑徳)

A：個人別の施設実習については自転車で通うよう指導している。
(砺波女子)

Q：実習費から支出している。教師送迎の場合もガソリン代を負担する。謝礼金額はどの算定しているのか。
(世羅)

A：同一施設に各科で実習をしているため一律としている。
(福知山淑徳)

Q：本校では、社会福祉基礎を「心を育てる」内容にしているが、実習はどの程度を設定すればよいのか。
(吾妻)

A：講義と実技を行っている。約10項目を10時間で設定している。講義にもVTRを利用して理解を促すよう工夫している。(御宿)

A：問題を自分におきかえて考えさせる内容をとらえ、講義と実習は9：1の割合である。講義の工夫は御宿と同じ。
(福知山淑徳)

Q：「実習10日以上」の規定で、生徒間にばらつきは生じないか。また施設実習が日曜・祝日になる場合の対応はどうしているのか。
(釧路星園)

A：体調不良者ができることなどを考慮して弾力性をもたせ原則10日としている。実習期間内に休日を設け、実習の日数を確保している。
(福知山淑徳)

—指導講評—

岡山県立倉敷中央高等学校
丹原 百合子 先生

本校は福祉科のためコース等の分科会で話す立場ではないが、様々な問題を抱えて指導してきたのは同じである。福祉科設置にあたっては看護と家庭の教員が大学で研修を受けた。福祉

科は社会・家庭・看護の各教科の協力の下、3年間を見通し計画を立てて取り組んできた。指導すべき内容が多いため、重なりをなくすよう1年は基礎看護、2・3年で老人介護と施設実習とした。施設実習は2・3年次とも授業日に集中2週間で実施し、事前事後の指導から実習の記録、施設からの評価票等で総合的に評価を行う。ヘルパー関連の実習は夏季休業中としているが受け入れ施設が県下全域におよぶため依頼が大変であった。本日の発表等から各校がヘルパー養成のために実習を熱心に組まれている様子を伺うことができた。なお、新学習指導要領もだされ、今後は社会福祉基礎の内容も明確にされるのではないかとと思われる。

岡山県教育庁指導課指導主事
考藤 悦子 先生

発表から福祉教育に地域の協力が得られていることを喜ばしく思う。矢幅先生の挨拶にあったように、地域や生徒の実態を踏まえた資格取得が大切である。福祉教育は先生方の献身的な努力によるところが大きい。岡山県では平成6年の福祉科設置に伴い内地留学により研修機会を確保し対応してきた。他県でも要望により研修体制が整うであろう。そして研修により各校の扱う内容の差も同一レベルでの指導に結び付くと思う。謝礼金については現在ヘルパー2・3級の養成を行っている学校7校に対し、県が施設と委託契約を結び1,000円/人/日の委託料を払っている。文部省は新学習指導要領において福祉実習の時間は示さない予定であると聞いている。実習は可能な限り授業日に位置づけるのが望ましい。但し、受入側の都合もあり、先進県（福岡県）で既に実施されている送り出す側の連絡協議会の設置等、実習時期の重なりをなくす方向での検討も必要と思われる。各県とも課題があり、教員の悩みも多い中、共通の検討課題として今後の福祉教育の充実・発展のため、一層の研究協議を進めていただきたい。

質疑応答 2 (アンケートより)

(1) 調査官 矢幅清司氏への質問

Q: ①社会福祉の専攻科はどのくらいあるか。
②家庭・看護・公民の教員が福祉の免許を取得する場合、現在福祉関係の科目を担当している等の条件が必要か。

③福祉の教員免許を取得する上で、ホームヘルパー・介護福祉士等の資格取得者が有利な点はあるか。

④総合学科への学科再編が進んでいるが、福祉の専門性は維持できるのか。(司会)

A: ①全国に3校、青森県の光星学院高校、山口県の中村女子高校、福岡県の福智高校がある。

②平成15年度から福祉を担当することが予測される教員は受講できる方向で考えている。

③教員養成とは基盤が異なるので、有利な点はない。

④総合学科等においても、資格取得までの専門科目・教員・施設を整備した上で生徒に選択させるようにすれば、専門性は薄れないのではないか。

Q: 福祉実習の免許も福祉の免許と同じように養成が行われるのか。(釧路星園)

A: 福祉実習の免許は、法令上は作るが養成はしない。福祉の免許を持っていれば実習もできるので、福祉の教員を十分配置していく方向で考えている。

Q: 家庭科の男女必修のように、社会福祉基礎を高校生全員に教えられるようになる見通しはないか。(御宿)

A: 個人的には、普通教育にこそ、福祉が必要だと思うので広げていきたい。普通科等でも選択科目として取り入れ、きちんと理念を伝えながら明るいイメージを持たせる福祉教育をしてほしい。

Q: 実習に出てみて、理想と現実のギャップを感じるがあるが、理念としては何をどのように学ばせていけばよいのか。(司会)

A: ギャップに気づくことが大切である。理想は理想で理念として伝え、その完成へ向け

てギャップを縮めていこうという前向きな姿勢で指導していけばよい。

Q: 介護保険制度が始まると実習施設の受け入れが厳しくなるのではないか。また、実習施設が見つからない場合はどうすればよいのか。(司会)

A: 介護保険が始まると施設の方は若干忙しくなるかもしれないが、それを理由に断ることはない。解決策としては日程調整をすること。県レベルの調整をするような組織があるとよい。資格取得に関わらないのであれば、施設実習に行かなくても福祉教育はできる。障害を持った方々を学校へお呼びするなど、違う場を設定することも一つの方法ではないか。

(2) 実習について

Q: 御宿高校では、外部講師としてTTの指導をおこなう場合、評価はどのようにしているのか。(司会)

A: 自分も授業のノートを取っておき、テストを作成して採点・評価する。授業中に行う個人テストは、外部講師が採点表で評価し、最後に平常点として加味する。(御宿)

Q: 福知山淑徳高校では、
①福祉実習6単位はどの科目でどのようにおこなっているのか。

②2年次の校外実習の評価は誰がしているのか。

③夏季休業中の実習を欠席した場合の扱いはどうしているのか。(司会)

A: ①2年次で、校外実習2単位を夏季休業中におこない、社会福祉実習2単位の中で介護技術・障害者福祉論等の講義とオリエンテーションや実習後の指導をおこなっている。3年次の社会福祉実習2単位では、障害形態別の内容1単位と施設実習1単位という形で進めている。

②評価表を元に、実習記録ノート、欠席・遅刻等で判断し、教員が評価している。

③3日程度の欠席は施設と相談の上、繰り上げて実施してもらう。長期欠席の場合

は冬休みに延期する。(福知山淑徳)

Q: 入院等で欠席が多い場合の補充・単位認定、ホームヘルパーの同行訪問等が実施できなかった場合の対応はどのようにしているのか。(司会)

A: 本校では、授業日に実習をおこなっているため、長期の欠席者は夏休み・冬休みに行っている。部活動で欠席の生徒は補充をしない。(福知山淑徳)

A: ホームヘルパー等の同行訪問については夏休みと春休みに必ず補充をする。(久賀)

Q: 男子の校外実習について問題はないか。(司会)

A: 今までに問題が起こったことはない。(三井)

A: 男子の方が入浴介助で頼りにされる等、好意的に受け止めてもらっている。(大牟田南)

Q: 施設実習の内容・指導の程度・評価等に差が生じないように施設との調整をしているか。(司会)

A: 本校は、6施設の協力を得てオリエンテーションの日を設けている。心構えを施設の方に話してもらい、生徒が具体的な打ち合わせをした後、教員も話し合いをして共通理解をはかる。実習後も同じような形で反省会を設けている。(大牟田南)

Q: 外部講師・同行訪問等の謝金はどのくらい払えばよいのか。(大牟田南)

A: 2年次には社会福祉協議会を通しての実習、3年次にホームヘルパー2級の実習をおこなっているが、人数にかかわらず5000円とジュース1箱を謝礼としている。(滋賀学園)

A: 県関係の外部講師には、県の申し合わせで謝金は出さない。その他は5000円程度の謝金と味噌やメロン等の生産品を渡している。(神埼清明)

A: 謝金はないが、学校からの手みやげを持って行っている。(室戸)

A: ホームヘルパー2級を実施しているが、県と施設とで実習の委託契約が結ばれ、生徒1人当たり1日1000円を支払っている。

(岡山精研)

A: ホームヘルパーに関しての外部講師は、今は社会人講師活用事業の中で、2時間11500円の謝金を出している。申請がすべて認められるわけではないので、認められない部分は各学校で対応している。

(指導課: 考藤先生)

A: 1人1日1000円でおこなっている。外部講師の謝金は、町の職員はなし、その他は非常勤講師と同じ金額を支払っている。生徒の交通費も県から出る。(久賀)

Q: 巡回指導はどのように対応しているのか。他教科の教員との連携はどうか。(司会)

A: 福祉科の教員は6人いるが、普通科の教員や校長・教頭にも行ってもらう。見てくる基準がばらばらになりやすいので、責任者は全施設に必ず1回以上行く。(久賀)

A: 福祉の科目を担当している教員で対応していたが負担が大きいため、他教科の教員にお願いして1回は行っていただくことにした。結果的にはうまくいっている。(倉敷中央)

Q: 巡回指導の際に見るべき視点というのはあるのか。(司会)

A: 他教科の教員にはそこまで要求できないので、必ず生徒の顔を見てきてもらうことと、記録用紙に感想等を書いてもらうことをお願いしている。(倉敷中央)

A: 活発に動いていたか等の項目をあげたチェック表に記入してもらう。(久賀)

(3) その他

Q: 福祉教育は、全体として介護福祉士の資格を取る方向に進んでいるのか。(有磯)

A: 福祉科高等学校長会のアンケートは、どのような資格を取っているかという調査であって、介護福祉士を最優先しているわけではない。少しでも多くの学校に福祉マインドの教育をして欲しいことが前提である。(岡山後楽館)

Q: 全体の傾向として福祉は人気があるが、富山県でも生活福祉科が多く、その専門性を

問われている。この点について見解を聞かせて欲しい。(有磯)

A:最初は介護福祉士の受験資格を持つ学校だけが集まっていたが、今はコースや類系でも福祉教育が進んできたので2つの分科会に分けた。今後、コース等設置校の分科会の方が多くなって、福祉教育をひっぱり出すのではないかと期待している。

(岡山後楽館)

A:本校は普通科だが、生徒数が激減する中、学校活性化の意味で福祉類型が作られた。目的意識を持たせるために今年からホームヘルパーの養成研修に取り組んでいる。

(大牟田南)

A:「産業教育」の昨年の4月号に日本社会事業大学の橋本謙策先生が、人生には帰納型と演繹型があると書かれていた。人生は生涯教育なので、福祉マインドを育てることによってその人の人生を豊かなものにしていければよいのではないかと。また、福祉科として大学の指定枠がいただけるので、活用していただきたい。(岡山後楽館)

A:本校は普通科の福祉コースで、資格は取得させていない。あくまでも進学が中心なので、福祉の科目を可能な限り取り入れつついかに進学に対応できる力を養成していくかが課題となっている。(金沢伏見)

A:本校では、地域の高齢者や小中学生といっしょに行事をする世代間交流会をおこなっている。福祉マインドの育成には施設実習だけでなく、地域との交流という形もある。資格取得に取り組まなくても福祉は学ばせられるのではないかと。(世羅)

—指導講評—

岡山県立倉敷中央高等学校
丹原 百合子 先生

今年から、普通科に、2年次で医療看護系と保育福祉系に分かれる人間探求コースを作った。資格とは切り離して、将来、福祉・医療・看護の方へ進む生徒に福祉マインドを育てるという形で計画を進めている。本校はこのような現状だが、他校の様子が大変参考になった。

岡山県教育庁指導課指導主事
考藤 悦子 先生

県教委から校外実習には引率が必要と言われたが、他県はどうかという質問が出ている。岡山県では、そのような指導を口頭でしたことはないが、校外実習は学校の教育課程に位置づけられたものであり、学校から行く場合には引率が必要と考えている。実習先が非常に多い場合もあるので巡回指導といった形で指導していただく必要がある。決して施設側に全部あずけてしまわないようお願いしたい。そして、ホームヘルパーに関しては、生徒の実態や地域のニーズを考え、責任を持って送り出せるような養成をおこなっていただきたい。また、新学習指導要領では、全ての生徒に一律の教育課程を課すのではなく、生徒が興味・関心において選択できるように配慮するという事なので、そのような教育課程の編成が今後の課題である。来年度はぜひ教育課程等も示していただき、内容について検討していけたらよいのではないかと。

記録者 児子 文子(岡山県立吉備北陵高)
則本 智子(岡山県立日本原高)

部会報告・指導講評・閉会行事

平成11年10月22日(金)10:40~12:10
カルチャーホテル(平安の間)

司会進行 澤田 欣郎(富山県立砺波女子高等学校長)

校長部会報告

小田 博一(愛知県立古知野高等学校長)
新教科への移行や介護保険法実施を前に、校長として様々な不安がある。福祉の教員免許については、担当者の不安や年配の先生の辞退も予想され、各都道府県・各学校での工夫や苦労があると思われる。介護福祉士の国家試験やヘルパーの養成研修については、就職面から考えると早く行ってもらいたいが、教育期間が短く不十分な養成になるので慎重に対応していきたい。就職については介護保険実施前ということもあり、採用に様子見の施設もあるが、頻りに施設を訪問すると共に、不断の施設実習やボランティア活動をもっと充実させて、高校生としての力量を認めてもらうことが必要だ。しかし、在宅介護が推進されるなかでヘルパーとして高校生では若すぎるのではないかと心配の意見もあった。教員定数については普通科並みの定数ではなく、福祉科の実態にあわせた要望を出していく必要があると考える。施設実習については、専門学校との協議会を設けたり、実習費の公費補助も必要ではないかと。また、事前指導や巡回指導の内容を吟味することも求められている。様々な不安や恐れはあるものの、校長会としては福祉科の取り組みに裏付けを持ったうえで関係方面と当たっていくことが強調された。

主任等の部会報告

①学科設置校:池田 延己(函館大妻高等学校)
愛知県立高浜高等学校の鋤柄由美子先生より「施設実習の効果的指導法」の発表があった。入学前より保護者に対する意識づけを行い、入学後生徒に対してオリエンテーションを行い、福祉科の生徒であるとの自覚を高めている。実習の事前指導としては、施設実習のファイルを作成して施設自体を生徒に調べさせるなど実習

に対するムードを徐々に高めていき、事後指導としては専門学校先生に来ていただき実習後の講演会を行っている。

山形県立山辺高等学校の目黒圭子先生からは「国家試験対策と指導」についての発表があった。初めての卒業生での国家試験合格率97.4%という高合格率は、中学校に対して福祉の心構えや成績条件をアピールして県下全域から生徒が募集できたということ、そしてチームティーチングにより指導効果を上げると共に、模擬試験を行って実力を高めながら国家試験に臨んだことによるものであるとの発表があった。

質疑応答では「福祉の教員免許」「ホームヘルパー」「施設実習」「ボランティア」等の活発な意見交換がされた。今後の課題としては、毎年同じ内容の質問が出されるので、事前に質問を集約して今までのデータを提示しながら有効に本部会を運営したい。

④コース等設置校:加賀谷恵子 (砺波女子高等学校)

「普通科福祉コースの現状と問題点」について千葉県立御宿高等学校の丸ひさ子先生より、「福祉実習について」は京都府福知山淑徳高等学校の渡辺みどり先生より発表があった。その後、先生方より福祉実習に関する質問を出しあった。実習に関しては、実習費や交通費、実習期間や時期、実習の謝礼や巡回指導の方法についての情報交換がされ、普通科や総合学科における問題点についても活発な意見交換がされた。各コースや類型での様々な実態から、どのように取り組み、何を目指していけば良いのか悩みが多いが、指導助言者の考藤悦子先生より、新学習指導要領に伴い総合学科では生徒の関心において資格取得まで目指す単位数も可能だし、福祉マインドを目指して上級学校につなげるな

ど自由に考えることができるとの助言を受けた。来年はコース設置校の問題点を深めていかなければならないことを確認して分科会を終了した。

<指導講評>

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官
矢幅 清司

2日間の協議の中で確認したい部分を述べる。

- 1 教科「福祉」の教員養成方法について
 - (1) 来年度より3年間実施する現職教員等の講習を受ける。
 - (2) (1)の講習を受けられない場合は、職員資格認定試験で取得できるようにしたい。
 - (3) 大学における養成。
 - (4) 特別免許状、特別非常勤講師制度の活用。

2 教員定数について

福祉科の現状では各校4～6名配置されているが、これを下回ることがないよう要望していきたい。

3 介護福祉士の資格取得の単位数について
平成15年度からの新学習指導要領の実施に伴い、現行38単位を減らす方向で検討したい。

4 実習施設について

どこも満杯と聞かすが、事前に協議会等を経て調整し、各学校、養成施設、教育委員会、保健福祉部等と連絡を密にして実施して欲しい。

5 介護福祉士、ホームヘルパー等の資格取得について

中等教育の締めくくりとしての高校教育が基本であり、資格取得のみを目標にするのではなく、そのプロセスを大事にして欲しい。資格を取っても内容を伴っていないということのないように責任をもって内容の充実をお願いしたい。

6 専門学科卒業生の進学について

専門学科等の枠で進学したい者は、熱心で問題意識が明確と評判がいい。進路を拓くためにも福祉マインドを土台に、知識、技術を持つ生徒の養成に力を注いで欲しい。

7 校長会、先生方に期待したいこと

年1回の大会では共通課題を話し合う機会が限られるので、各ブロックでの研究協議会を開催して欲しい。又、教科「福祉」の内容の充実

をお願いしたい。「教師」が、生徒にとって最大の教育環境だと思う。豊かな福祉観を持ち、豊かな人間性と専門性を持った教師を養成すべく、これからの皆さんの熱心な取り組みに期待したい。

<閉会行事>

司会進行 上田 敏博(岡山県美作高等学校長)

1 開会のことば

全国福祉科高等学校長会中国地区理事
藤重 豊

2 主催者あいさつ

全国高等学校長協会家庭部会理事長
山田 辰明

福祉教育への熱い思いがひしひしと伝わる研究協議会であった。「福祉」は家庭部会から一人立ちを迎えようとしているが、これからも連携を保ちながら次代の若者を育てていきたい。今後ともよろしくをお願いしたい。

この2日間の学習を地域に持ち帰り、福祉教育に力添えをいただきたい。

全国福祉科高等学校長会会長 山口 祐司

この大会で福祉教育について多くのことを勉強した。文部省の矢幅先生から指導を受けたように、会員校が増えればブロック別協議会を考える必要もあるだろう。又、福祉教育を学科だけに終わらせず全体に普及することも検討を重ねていきたい。

この会で得たものを学校に持ち帰り、福祉教育の充実に役立てて欲しい。

3 次回主管校あいさつ

兵庫県立新宮高等学校長 鈴木 英雄

4 主管校あいさつ

ベル学園高等学校長 高畑 幸彦

5 閉会のことば

全国福祉科高等学校長会中国地区理事
藤重 豊

記録者 河本 洋子(岡山県立福渡高)
木多 淳宏(岡山県立倉敷中央高)

岡山大会を終えて

主管校 岡山県ベル学園高等学校
校長 高畑 幸彦

本大会は、平成11年3月告示の新学習指導要領に教科「福祉」が正式に位置付けられた初年度に当たるだけに、学校内外の関心も大きく、なんとか皆様のご期待に沿いたいとの思いで出発した。そして、校長会全国理事会と密接に連携を図って実施してきた。

本年度は、家庭部会理事長、同事務局長、同福祉科校長会長、文部省教科調査官、主管校校長等が総変わりした中で実施することになった。若干の不安もあったが、高校福祉元年にベル学園高校で実施出来ることを有り難いこと、名誉なことと受け止めた。また、岡山県教育の振興にも有益なことと思い、県内高校関係者が協力して取り組んだ。

今年5月の福祉科校長会において提案した要旨は①学校会場としてベル学園高校を使い、公開授業及び施設開放を行う。②新学習指導要領に初めて位置付けられた高校福祉教育について矢幅清司文部省調査官から国の方針を示していただくこと。③学校現場の実際の課題を討議する場とする。④学科・コースの設置校に止まらず、家庭科教諭等の参加を得て、福祉教育の裾野を広げることである。

実施後のアンケート調査では①学校会場、公開授業、文部省講演、大会運営等はほぼ100%の方が良かったと評価し②今後の高校福祉教育の課題として卒業後の進路・資格取得、実習施設確保、教員養成、教員免許等をあげる方が多く見られた。

初期の目的を達成したかどうか、不安があるが、歴史の浅い高校福祉全国大会としては、概ね良好との評価を多くの皆様からいただき、本県及びベル学園にとって有り難いことと感謝している。大会の回数を重ねるごとに高校福祉教育が一層発展することを祈りたいと思う。終わりに文部・厚生省、全国高校長協会家庭部会、同事務局、福祉科高校長会、岡山県教委、県校長会等の関係の皆様にも厚くお礼申し上げます。

主管校の学科主任として

岡山県ベル学園高等学校
総合福祉科主任 五十嵐 武

「この大会を振り返って」という原稿を前にして「果たしてどのような大会だったのだろうか」と、初めて大会の中身を考えられるようになった。準備期間が長く感じられ、大会当日は諸行事が駆け抜けていったというのが実感である。

昨年度まで福祉科の全国大会に参加したこともなかった私が全国大会の主管校の実行委員長を務めることになるとは思いもしていなかった。今年の4月、本校の総合福祉科主任という職務を任されたのがこの仕事に取りかかった最初だった。

それゆえ無我夢中の半年間だったように思う。正直なところ形だけを整えて内容の充実には頭が回らなかった。

まず、5月27日の全国の学科主任代表者会議に大会の要項案を準備することから本格的な仕事は始まった。昨年度の大会要項にならぬ、大会の大枠だけは何とか作った。初めての公開授業、会場移動とクリアしなければならないことが次々と出てきた。各時点での課題を解決することに追われた。そして何とか、7月1日に岡山大会の要項発送にこぎ着けた。ところが、今度は大会要項が届いていないという問い合わせが各地の高校から寄せられ、あわてた。

第1次の参加締め切りとなっていた8月10日にはまだ100名に満たなかった。次の手として県下の家庭部会加盟校と昨年度の参加校に向けて第2次の参加呼びかけを行った。正直なところどれだけ増えるか心配した。

加えて、今度は当日の運営を組み立てることを迫られていた。果たして間に合うのだろうか。9月1日には思った。あとはもう時間との戦いだった。本校の実行委員も目の色が変わった。各係とも全力投球だった。最後の2週間に1年分くらいの仕事に対する集中力を発揮できた。

改めて、本校の職員および県下の実行委員担当校の先生方のご協力に感謝いたします。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約

平成 7 年 10 月 12 日 施行
 平成 10 年 7 月 23 日 改正
 平成 11 年 10 月 21 日 改正

(総則)

- 第 1 条 本会は全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会と称する。
 第 2 条 本会は全国高等学校長協会家庭部会の研究協議機関として、福祉科教育の振興を図ることを目的とする。

(組織)

- 第 3 条 本会は全国の福祉科（福祉科に準ずる）を置く高等学校の校長で組織する。
 第 4 条 本会は次の地区を設ける。
- | | |
|---------|--------|
| 1、北海道地区 | 6、近畿地区 |
| 2、東北地区 | 7、中国地区 |
| 3、関東地区 | 8、四国地区 |
| 4、北信越地区 | 9、九州地区 |
| 5、東海地区 | |

(事業)

- 第 5 条 本会の目的を達成するために年 1 回の総会・研究協議会を開催するほか、研究活動、広報活動等を行い、また学科主任の連絡、情報交換、研究協議等の事業を行う。

(役員)

- 第 6 条 前条の事業を行うために本会の次の役員を置く。
- | | | | |
|-------|-----|------|---------|
| 1、会長 | 1 名 | 3、理事 | 各地区 1 名 |
| 2、副会長 | 1 名 | 4、監事 | 2 名 |
- 第 7 条 役員は理事会を構成し、本会の企画・運営に当たる。
 第 8 条 役員を選出方法は次のとおりとする。
 1、理事は各地区ごとに総会で選出する。
 2、会長は理事の互選とする。
 3、監事は会長が委嘱する。
 4、副会長は会長が委嘱し理事を兼ねることができる。
 5、会長所属地区からは、新たに理事を選出できる。
- 第 9 条 役員任期は 2 年とする。
 第 10 条 本会の事務局は会長高等学校に置く。

(会計)

- 第 11 条 本会の経費は会員の会費で支弁する。
 会費は年額 5,000 円とする。

(付則)

- 第 12 条 この規約は平成 7 年 10 月 12 日から施行する。

平成11年度 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 学科主任代表者会

組 織

氏 名	ブロック	公私	学 校 名 所	TEL FAX
池田 延己	北海道 (北海道)	私	函館大妻高等学校 北海道函館市柳町14-23	0138-52-1890 0138-52-1892
高橋 恵里香	東北 (岩手)	県	一関第二高等学校 岩手県一関市赤荻字野中23	0191-25-2241 0191-25-5432
荒井 智子	関東 (栃木)	県	真岡北陵高等学校 栃木県真岡市下籠谷396	0285-82-3415 0285-83-4634
加賀谷 恵子	北信越 (富山)	県	砺波女子高等学校 富山県小矢部市清水95-1	0766-61-2040 0766-61-8255
嶋田 麻知代	東海 (愛知)	県	古知野高等学校 愛知県江南市古知野町高瀬1	0587-56-2508 0587-53-0989
山崎 由美	近畿 (兵庫)	県	日高高等学校 兵庫県城崎郡日高町岩中1	0796-42-1133 0796-42-1648
五十嵐 武	中国 (岡山)	私	ベル学園高等学校 岡山県岡山市下伊福西町7-38	086-252-2101 086-253-0582
中田 千栄子	四国 (愛媛)	私	松山城南高等学校 愛媛県松山市北久米町815	089-976-4343 089-976-4348
島村 健二	九州 (鹿児島)	私	加治木女子高等学校 鹿児島県始良郡加治木町木田5348	0995-63-3001 0995-63-3002
荒井 智子	関東 (事務局)	県	真岡北陵高等学校 栃木県真岡市下籠谷396	0285-82-3415 0285-83-4634

平成11年度 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長加盟校一覧

平成12年3月現在 (○は今大会参加校)

都道府県名	No.	学校名	学科名	校長名	学科主任名
		〒 住 所		学校TEL	学校FAX
北海道	①	函館大妻高等学校	福祉科	外山 茂樹	池田 延己
		〒040-0002 函館市柳町14-23		0138-52-1890	0138-52-1892
	2	留寿都高等学校	農業福祉科	長 祐弘	高柳 和昇
		〒048-1731 虻田郡留寿都村字留寿都179-1		0136-46-3376	0138-46-3386
	③	置戸高等学校	生活福祉科	佐藤 徳崇	岡嶋 弘美
	〒099-1112 常呂郡置戸町置戸256-8		0157-52-3263	0157-52-3263	
青森	④	釧路星園高等学校	教養福祉科	鈴木 信義	荒川 公子
		〒085-0806 釧路市武佐4-28-10		0154-46-1538	0154-46-1941
	5	剣淵高等学校	農業・生活科	畑 満	高橋 真一
		〒098-0323 上川郡剣淵町栄町6215		016534-2549	016534-2694
岩手	⑥	東奥学園高等学校	福祉科	大久保 貢	田中 泰恵
		〒030-0821 青森市中央2丁目15-17		0177-77-2760	0177-75-8375
	⑦	光星学院高等学校	保育福祉科	中村 キヤ	中村千鶴子
	〒031-8507 八戸市湊町字上新井田道8		0178-33-4151	0178-31-6287	
岩手	8	七戸高等学校	総合学科	濱館 有美	—————
		〒039-2516 上北郡七戸町字館野47-31		0176-62-4111	0176-62-4112
	9	西和賀高等学校	普通科	米澤 俊英	近藤 健一
		〒029-5503 和賀郡湯田町湯田19地割25-2		0197-84-2809	0197-84-2844
	⑩	一関第二高等学校	福祉教養科	瀬川 孝三	高橋恵里香
		〒021-0041 一関市赤荻字野中23		0191-25-2241	0191-25-5432
	⑪	久慈農林高等学校	福祉教養科	柿澤 雅邦	浅川 義人
		〒028-0021 久慈市門前36地割10番		0194-53-4371	0194-53-2540
岩手	⑫	一戸高等学校	福祉科	齊藤 文雄	佐藤 貴生
		〒028-5312 二戸郡一戸町一戸字蒔前60-1		0195-33-3042	0195-33-2777
	13	岩谷堂高等学校	総合学科	畠中 祥夫	阿部 和子
		〒023-1122 江刺市館山4-47		0197-35-1911	0197-35-4677
宮城	14	盛岡スコール高等学校	総合学科	宮本 義隆	田中 力
		〒020-0851 盛岡市向中野字才川2-3		019-636-0827	019-636-0830
秋田	⑮	村田高等学校	総合学科	佐藤 寛	日吉ふく子
		〒989-1305 柴田郡村田町大字村田字金谷1		0224-83-2275	0224-83-2276
	16	大館桂高等学校	普通科	栗田 廣	成田多美枝
		〒017-0876 大館市餅田2-3-1		0186-49-1010	0186-49-1011
	17	雄勝高等学校	普通科	高橋 則雄	—————
	〒019-0112 雄勝郡雄勝町下院内字小白岩197-2		0183-52-4355	0183-52-4356	
秋田	18	増田高等学校	総合学科	木村 養市	庄司 聡子
		〒019-0701 平鹿郡増田町増田字一本柳137		0182-45-2073	0182-45-2088
	19	公立合川高等学校	介護福祉科	大山 義武	宍倉 博明
	〒018-4221 北秋田郡合川町下杉字中島54-2		0186-78-3177	0186-78-3178	

(○は今大会参加校)

都道府県名	No.	学校名	学科名	校長名	学科主任名
		〒 住 所		学校TEL	学校FAX
秋田	20	湯沢北高等学校	生活科学科	柴田 昭二	小松田 絢子
		〒012-0823 湯沢市湯ノ原2-1-1		0183-73-5168	0183-73-5169
山形	⑳	山辺高等学校	福祉科	金村 勲	目黒 圭子
		〒990-0301 東村山郡山辺町大字山辺3028		023-664-5462	023-664-5545
福島	22	庄内総合高等学校	総合学科	地主 友昭	—————
		〒999-7707 東田川郡余目町大字廿六木三ツ車8		0234-43-2138	0234-42-1273
	23	光南高等学校	総合学科	村山 正之	—————
		〒969-0227 西白河郡矢吹町田町532		0248-42-2205	0248-44-3373
	⑳	川口高等学校	普通科	七島 藤雄	—————
		〒968-0011 大沼郡金山町大字川口字蛇沢2434-2		0241-54-2154	0241-54-2240
茨城	25	船引高等学校	普通科	斎藤 洋一	上野 敬子
		〒963-4398 田村郡船引町大字船引字石崎15-3		0247-82-1511	0247-82-5233
茨城	26	小野高等学校	総合学科	鈴木 弘文	芳賀 恵子
		〒963-3401 田村郡小野町大字小野新町字宿後63		0247-72-3171	0247-72-6211
	⑳	古河第二高等学校	教養福祉科	植野 孝雄	萩原 明子
	〒306-0024 古河市幸町19-18		0280-32-0444	0280-31-6602	
栃木	28	八千代高等学校	総合学科	豊崎 功	潮田 巧巳
		〒300-3561 結城郡八千代町大字平塚4824-2		0296-48-1836	0296-48-3201
群馬	⑳	真岡北陵高等学校	教養福祉科	山口 祐司	荒井 智子
		〒321-4415 真岡市下籠谷396		0285-82-3415	0285-83-4634
群馬	⑳	塩谷高等学校	社会福祉科	立入 輝夫	堀江 久子
		〒329-2332 塩谷郡塩谷町大宮2579-1		0287-45-1101	0287-45-0986
	⑳	吾妻高等学校	福祉科	東 勲	山崎 智子
		〒377-0804 吾妻郡吾妻町大字原町192		0279-68-2334	0279-68-2747
	32	新田暁高等学校	総合学科	吉見 功	—————
		〒370-0347 新田郡新田町大根999		0276-57-1056	0276-57-3953
	33	渋川青翠高等学校	総合学科	信澤 明	—————
		〒377-0000 渋川市折原3912-1		0279-24-2320	0279-24-9543
	34	大間々高等学校	普通科	若林 宏宗	田村 智子
		〒376-0102 山田郡大間々町桐原193-1		0277-73-1611	0277-72-4212
群馬	⑳	万場高等学校	普通科	長谷川 孝	木内 信夫
		〒370-1503 多野郡万場町生利1549-1		0274-57-3119	0274-57-2453
埼玉	36	太田西女子高等学校	家政科	今井 英雄	荒井 尚美
		〒373-0844 太田市下田島町1243-1		0276-31-0510	0276-31-8921
千葉	⑳	不動岡誠和高等学校	社会福祉科	本橋 恒雄	佐藤 恵子
		〒348-0024 羽生市神戸706		0485-61-6651	0485-60-1051
千葉	⑳	松戸矢切高等学校	福祉教養科	床井 幸雄	佐藤 知行
		〒271-0095 松戸市中矢切54		047-368-4741	047-368-4396

(○は今大会参加校)

都道府県名	No.		学 校 名	学 科 名	校 長 名	学科主任名
			〒 住 所		学校TEL	学校FAX
千 葉	39	県	御宿高等学校 〒 299-5102 夷隅郡御宿町久保 1528	普通科	坂井 紘子 0470-68-2911	丸 ひさ子 0470-68-6886
山 梨	40	県	甲府城西高等学校 〒 400-0064 甲府市下飯田 1丁目 9-1	総合学科	長田 貞夫 055-223-3101	中込 芳江 055-223-3103
東 京	41	都	大泉学園高等学校 〒 178-0061 練馬区大泉学園町 9-1-1	普通科	八代 晃 03-3924-3185	前田 朋乃 03-3924-9411
	42	都	南高等学校 〒 143-0027 大田区中馬込 3-11-10	普通科	飯島 篤 03-3774-0373	————— 03-3774-0325
神奈川	43	県	綾瀬西高等学校 〒 252-1123 綾瀬市早川 1485-1	普通科	坂寄 孝雄 0467-77-5121	勝見 優 0467-76-8199
	44	県	高浜高等学校 〒 254-0805 平塚市高浜台 8-1	普通科	佐々木重昭 0463-21-0418	渡邊 努 0463-23-7138
	45	市	川崎高等学校 〒 210-0806 川崎市川崎区中島 3-3-1	福祉科	国吉 卓 044-244-4981	小俣 三郎 044-211-8295
	46	県	津久井高等学校 〒 220-0209 津久井郡津久井町三ヶ木 272-1	普通科	立山 洋典 042-784-1053	石川 直敦 042-784-7960
新 潟	47	県	八海高等学校 〒 949-6632 南魚沼郡六日町大字余川 1276	福祉科	吉原喜久雄 0257-72-3281	小野塚美代子 0257-72-8878
	48	県	高田北城高等学校 〒 943-0824 上越市北城町 2-8-1	生活文化科	安田 邦英 0255-22-1164	中野 由佳 0255-26-1579
	49	県	新井高等学校 〒 944-0031 新井市田町 1丁目 10-1	総合学科	児玉 伸 0255-72-4151	————— 0255-72-7529
	50	県	西川竹園高等学校 〒 959-0421 西蒲原郡西川町大字鱸2-1	生活文化科	阪本 哲夫 0256-88-3131	寺崎 洋子 0256-88-2172
	51	私	中越高等学校 〒 940-0875 長岡市新保町 1371-1	普通科	渡邊 昌雄 0258-24-0203	諸橋 益雄 0258-24-0205
富 山	52	県	八尾高等学校 〒 939-2376 婦負郡八尾町福島 213	生活福祉科	坂巻 龍雄 0764-54-2205	桐井 優子 0764-54-5999
	53	県	砺波女子高等学校 〒 932-0114 小矢部市清水 95-1	生活福祉科	澤田 欣郎 0766-61-2040	加賀谷恵子 0766-61-8255
	54	県	有磯高等学校 〒 935-0025 氷見市鞍川 1056	生活福祉科	砂子阪政己 0766-74-0229	鈴木八重子 0766-74-0228
	55	県	新川女子高等学校 〒 937-0011 魚津市木下新 144	普通科	結城 正斉 0765-22-3535	島崎 俊哉 0765-22-2119
石 川	56	県	金沢伏見高等学校 〒 921-8044 金沢市米泉町 5-85	普通科	樋田 忠雄 076-242-6175	西田 圭子 076-242-7458
	57	県	田鶴浜高等学校 〒 929-2122 鹿島郡田鶴浜町上野ヶ丘 59	健康福祉科	新村 健了 0767-68-3116	永井 和美 0767-68-2351

(○は今大会参加校)

都道府県名	No.		学 校 名	学 科 名	校 長 名	学科主任名
			〒 住 所		学校TEL	学校FAX
石 川	58	県	柳田農業高等学校 〒 928-0331 鳳至郡柳田村字柳田イ部 3	生活科学科	山本 善昭 0768-76-1211	高宮 恵子 0768-76-0079
福 井	59	県	大野東高等学校 〒 912-0016 大野市友江 9-10	福祉教養科	寺田 友昭 0779-66-4610	中村由美子 0779-66-5577
	60	私	啓新高等学校 〒 910-0017 福井市文京 4丁目 15-1	福祉科	荻原 芳昭 0776-23-3489	定兼 紘美 0776-21-2922
	61	県	上田千曲高等学校 〒 386-0034 上田市大字中之条 626	生活福祉科	石田 英勝 0268-22-7070	高橋加代子 0268-23-5370
静 岡	62	県	吉田高等学校 〒 421-0303 榛原郡吉田町片岡 2130	福祉科	中村羊一郎 0548-32-1241	池上 香苗 0548-32-7831
	63	私	三島高等学校 〒 411-0944 駿東郡長泉町竹原 354	福祉科	小崎 祥道 0559-75-0035	松本 寿子 0559-76-0735
	64	私	静岡女子高等学校 〒 422-8076 静岡市八幡 3丁目 6-1	福祉科	杉山 正美 054-285-2274	佐藤 完 054-282-2757
	65	私	沼津中央高等学校 〒 410-0033 沼津市杉崎町 11-20	普通科	勝又義太郎 0559-21-0346	村松 正安 0559-24-7158
	66	県	熱海高等学校 〒 413-0102 熱海市下多賀字向山 484-2	普通科	小池 力 0557-68-3291	————— 0557-68-1854
	愛 知	67	県	高浜高等学校 〒 444-1311 高浜市本郷町 1-6-1	福祉科	岡 謙二 0566-52-2100
68		県	宝陵高等学校 〒 441-1205 宝飯郡一宮町大字大木字鎌水 445	生活福祉科	河合 誠二 0533-93-2041	野澤 民恵 0533-93-2826
69		県	古知野高等学校 〒 483-8331 江南市古知野町高瀬 1	福祉科	小田 博一 0587-56-2508	嶋田麻知代 0587-53-0989
岐 阜	70	県	大垣桜高等学校 〒 503-0103 安八郡墨俣町上宿 465-1	福祉科	郷 孝夫 0584-62-6131	渡部 洋子 0584-62-5608
	71	県	岐阜総合学園高等学校 〒 500-8289 岐阜市須賀 2-7-25	総合学科	荒井 強平 058-271-5548	市原 詔子 058-274-2350
	72	県	土岐紅陵高等学校 〒 509-5202 土岐郡下石町 1795-12	総合学科	白木 義明 0572-57-7131	高山 里美 0572-57-7133
三 重	73	県	明野高等学校 〒 519-0501 度会郡小俣町明野 1481	福祉科	中川 昌保 0596-37-4125	中村 洋子 0596-37-4127
	74	県	上野商業高等学校 〒 518-0833 上野市緑ヶ丘東町 920	福祉科	須藤 淳三 0595-21-1900	富井 恵子 0595-21-1923
	75	私	みえ夢学園高等学校 〒 514-0803 津市柳山津興 1239	総合学科	小林 秀則 059-226-6257	————— 059-226-6218
滋 賀	76	県	長浜高等学校 〒 526-0033 長浜市平方町三反田 270	福祉科	山崎 忠士 0749-62-0896	村元 研二 0749-65-1340

(○は今大会参加校)

都道府県名	No.		学 校 名 〒 住 所	学 科 名	校 長 名 学校 T E L	学科主任名 学校 F A X
滋賀	(77)	県	滋賀学園(八日市女)高等学校 〒 527-0003 八日市市建部北町 520-1	普通科	清田 剛 0748-23-0858	岩崎由美子 0748-23-6145
京 都	78	私	聖家族女子高等学校 〒 622-0002 船井郡園部町美園町 1-78	普通科	石田 一彦 0771-62-0163	前川 尚慶 0771-62-0989
	79	私	福知山淑徳高等学校 〒 620-0936 福知山市正明寺 36-10	総合学科	山口 亨 0773-22-3763	渡邊みどり 0773-23-5519
大 阪	80	府	松原高等学校 〒 580-0041 松原市三宅東 3-4-1	総合学科	野村 利夫 0723-34-8008	加納 明彦 0723-34-8142
	81	府	柴島高等学校 〒 533-0024 大阪市東淀川区柴島 1-7-106	総合学科	清水 秀司 06-6323-8351	兵部 雅彦 06-6323-8237
兵 庫	82	県	日高高等学校 〒 669-5302 城崎郡日高町岩中 1	福祉科	宮谷 勝史 0796-42-1133	山崎 由美 0796-42-1648
	83	県	新宮高等学校 〒 671-4131 揖保郡新宮町新宮 27-1	福祉科	鈴木 英雄 0792-75-0018	長森 順子 0791-75-2549
	84	私	塩原女子高等学校 〒 651-0058 神戸市中央区葺合町寺ヶ谷 1	家政科	岸本 進 078-242-4811	重野 緑 078-242-5723
奈 良	85	県	榛原高等学校 〒 633-0241 宇陀郡榛原町下井足 210	福祉科	大矢 巖 0745-82-0525	中西美砂子 0745-82-7606
鳥 取	86	県	岩美高等学校 〒 681-0003 岩美郡岩美町浦富 708-2	普通科	三谷 孝章 0857-72-0474	山名 法道 0857-72-3445
島 根	87	県	益田産業高等学校 〒 698-0041 益田市高津町イ 2518-1	総合学科	多田 利昭 0856-22-0642	井上美紀子 0856-22-0684
	88	県	松江農林高等学校 〒 690-8507 松江市乃木福富町 51	総合学科	平木 栄 0852-21-6772	汐見 夏江 0852-21-6796
	89	私	明誠高等学校 〒 698-0006 益田市三宅町 7-37	福祉科	岸 政信 0856-22-1052	齋藤 智揮 0856-22-8729
	90	私	松徳女学院高等学校 〒 690-0015 松江市上乃木 1-14-51	普通科	吉田 章子 0852-21-5578	山本 寿子 0852-21-1350
岡 山	91	県	倉敷中央高等学校 〒 710-0845 倉敷市西富井 1384	福祉科	三吉 肇 086-465-2559	本多 淳宏 086-466-2832
	92	県	吉備北陵高等学校 〒 716-1112 上房郡賀陽町湯山 1028	普通科	向原 康夫 0866-54-1033	児子 文子 0866-54-0933
	93	私	美作高等学校 〒 708-0004 津山市山北 500	普通科	上田 敏博 0868-22-4838	明楽 俊應 0868-24-6171
	94	私	ベル学園高等学校 〒 700-0054 岡山市下伊福西町 7-38	総合福祉・社会福祉	高畑 幸彦 086-252-2101	五十嵐武・寺田貴美 086-253-0582
	95	県	福渡高等学校 〒 709-3111 御津郡建部町福渡 425	普通科	東城 達彦 0867-22-0741	河本 洋子 0867-22-2380

(○は今大会参加校)

都道府県名	No.		学 校 名 〒 住 所	学 科 名	校 長 名 学校 T E L	学科主任名 学校 F A X
岡 山	(96)	県	日本原高等学校 〒 708-1204 勝田郡勝北町日本原 577	家政科	木曾 城 0868-36-5165	則本 智子 0868-36-5336
広 島	(97)	県	黒瀬高等学校 〒 724-0622 賀茂郡黒瀬町乃美尾 1	福祉科	吉田 照男 0823-82-2525	黒田 京子 0823-82-2527
	(98)	県	世羅高等学校 〒 722-1193 世羅郡世羅町本郷 870	生活福祉科	田邊 康嗣 08472-2-1118	西郡 祐子 08472-2-5244
	99	県	吉田高等学校 〒 731-0501 高田郡吉田町吉田 719-3	生活福祉科	田中 辰吉 0826-42-0031	児玉美美江 0826-42-0207
山 口	(100)	県	久賀高等学校 〒 742-2301 大島郡久賀町 4851-2	福祉科	藤重 豊 08207-2-0024	山本 泰史 08207-2-0096
	(101)	私	中村女子高等学校 〒 753-8530 山口市駅通り 1-1-1	介護福祉科	五十部益一 0839-22-0418	河本 義満 0839-22-8063
	102	私	聖光高等学校 〒 743-0011 光市光井 9-22-1	普通科	東條 博典 0833-72-1187	河野江利子 0833-72-1308
高 知	103	県	城山高等学校 〒 781-5310 香美郡赤岡町 1612	普通科	野島 國弘 0887-55-2126	曾我部公彦 0888-55-0170
	(104)	県	室戸高等学校 〒 781-7102 室戸市室津 221	総合学科	時久 公郎 0887-22-1155	松本 智子 0887-22-3891
徳 島	(105)	県	城西高等学校 〒 770-0046 徳島市鮎喰町 2-1	総合学科	富加見恒治 088-631-5138	鎌田かおる 088-633-0453
香 川	(106)	県	三木高等学校 〒 761-0702 木田郡三木町平木 750	総合学科	永澤 正好 087-891-1100	小川 佳代 087-891-1551
	(107)	県	飯山高等学校 〒 762-0083 綾歌郡飯山町下法軍寺 664-1	総合学科	越智 熙 0877-98-5138	渡辺恵美子 0877-98-2576
愛 媛	(108)	県	新居浜南高等学校 〒 792-0836 新居浜市篠場町 1-32	総合学科	森 謙司 0897-43-6191	定岡 秀美 0897-44-7447
	(109)	県	北条高等学校 〒 799-2493 北条市辻 600-1	総合学科	阿部 龍昭 089-993-0333	芝田 敬子 089-993-0429
	110	県	川之石高等学校 〒 796-0201 西宇和郡保内町川之石 1-112	総合学科	亀岡 佳章 0894-36-0550	酒井賀陽子 0894-36-1994
	(111)	私	松山城南高等学校 〒 790-8550 松山市北久米 815	福祉科	西村 義臣 089-976-4343	中田千栄子 089-976-4348
福 岡	(112)	県	三井高等学校 〒 838-0122 小郡市松崎 650	普通科	神坂 貞幸 0942-72-2161	内田 洋子 0942-72-9064
	(113)	県	久留米筑水高等学校 〒 839-0817 久留米市山川町 1493	社会福祉科	山鹿 肇雄 0942-43-0461	佐々木哲雄 0942-45-0143
	(114)	私	杉森女子高等学校 〒 832-0046 柳川市奥州町 3	福祉科	相原 正憲 0944-72-5216	森 茂樹 0944-72-5128

(○は今大会参加校)

都道府県名	No.	学 校 名	学 科 名	校 長 名	学科主任名
		〒 住 所		学校TEL	学校FAX
福 岡	115	私	慶成高等学校 人間科学科 〒 803-0854 北九州市小倉北区皿山町 15-1	鈴木 孝顕 093-561-1331	中村 淨志 093-561-4844
	116	県	黒木高等学校 普通科 〒 834-1216 八女郡黒木町大字桑原 10-2	寺崎 祥尊 0943-42-1150	中園 和昭 0943-42-3791
	117	私	直方女子高等学校 介護福祉科 〒 822-0025 直方市日吉町 10-12	川原 克彦 0949-22-0533	漢 孝三郎 0949-22-0535
	(118)	市	福岡女子高等学校 保育福祉科 〒 819-0013 福岡市西区愛宕浜 3-2-2	古賀 哲躬 092-881-7344	中山 祥子 092-883-4227
	119	私	沖学園高等学校 社会総合学科 〒 816-0095 福岡市博多区竹下 2-1-33	沖 隆邦 092-431-1868	林 洋三 092-441-3274
佐 賀	(120)	県	神埼清明高等学校 総合学科 〒 842-0012 神埼郡神埼町横武 2	川崎 湧三 0952-52-3191	東島貴美子 0952-51-1017
長 崎	121	私	玉木女子高等学校 福祉科 〒 850-0822 長崎市愛宕 1 丁目 21-6	岩橋 弘 095-826-6321	澤田 忠和 095-828-6837
熊 本	(122)	県	八代農業高等学校 福祉教養科 〒 869-4201 八代郡鏡町大字鏡村 129	増永 孝 0965-52-0076	元山 満子 0965-52-5048
	123	県	多良木高等学校 普通科 〒 868-0501 球磨郡多良木町多良木 1212	小山 忠 0966-42-2102	瀬音 博美 0966-49-1022
	124	私	菊池女子高等学校 社会福祉科 〒 861-1331 菊池市隈府 1081	荒木 修 0968-25-3032	中村 巴 0968-25-3180
	125	私	城北高等学校 社会福祉科 〒 861-0542 山鹿市志々岐字大野原 798	松浦シズエ 0968-44-8111	馬場 誠也 0968-44-0747
	126	私	熊本フェイス女学院高等学校 医療福祉科 〒 861-4106 熊本市南高江 7 丁目 3-1	平川 勇 096-357-7151	大橋 康宏 096-358-3044
	(127)	県	阿蘇清峰高等学校 社会福祉科 〒 869-2612 阿蘇郡一の宮町宮地 4131	梶原蘇實夫 0967-22-0045	中山 美宇 0967-22-5161
	大 分	128	県	山香農業高等学校 生活科学科 〒 879-1306 速見郡山香町広瀬 4706	福澤 皓一 0977-75-1166
(129)		県	野津高等学校 福祉科 〒 875-0201 大野郡野津町大字野津市 537-1	臼杵 秀朗 0974-32-2031	藤田 泰子 0974-32-2119
130		私	楊志館高等学校 普通科 〒 870-0838 大分市桜ヶ丘 7-8	明石 晴之 097-543-6711	佐々木 修 097-543-4516
131		県	邪馬溪高等学校 普通科 〒 871-0404 下毛郡邪馬溪町大字戸原1663-1	大野 成臣 0979-54-2011	小野 潤子 0979-54-2519
132		県	玖珠農業高等学校 生活科学科 〒 879-4403 玖珠郡玖珠町大字帆足 160	穴井 裕康 09737-2-1148	飯田 元喜 09737-2-1149
133		私	大分市城南高等学校 保育福祉科 〒 870-0883 大分市永興 550	古長 司朗 097-544-3551	入江加寿子 097-544-5883

(○は今大会参加校)

都道府県名	No.	学 校 名	学 科 名	校 長 名	学科主任名
		〒 住 所		学校TEL	学校FAX
宮 崎	(134)	県	妻高等学校 福祉生活科 〒 881-0003 西都市大字右松 2330	鷲谷九州男 0983-43-0005	濱砂美穂子 0983-43-0005
	(135)	県	日南農林高等学校 福祉生活科 〒 889-3202 南那珂郡南郷町大字中村甲 3543	小西 国雄 0987-64-1177	井戸川浜子 0987-64-1947
	(136)	県	門川農業高等学校 福祉生活科 〒 889-0611 東臼杵郡門川町大字門川尾末 2680	岩崎健一郎 0982-63-1336	三宅 康子 0982-63-5194
	(137)	県	高原高等学校 福祉生活科 〒 889-4411 西諸県郡高原町大字広原 4981-2	前田 勝 0984-42-1010	森田 和枝 0984-42-1270
	138	私	都城高等学校 介護福祉科 〒 885-8502 都城市蓑原町 7916	柳田 正照 0986-23-2477	相葉 春信 0986-26-5220
鹿 児 島	(139)	県	加世田常潤高等学校 生活福祉科 〒 897-0002 加世田市武田 14863	坂本 道應 0993-53-3600	吉永 裕子 0993-53-3601
	(140)	私	加治木女子高等学校 医療福祉科 〒 899-5241 始良郡加治木町木田 5348	桐原 祥二 0995-63-3001	島村 健二 0995-63-3002
	(141)	私	鳳凰高等学校 医療福祉科 〒 897-1121 加世田市唐仁原 1202	西 美継 0993-53-3633	釜口 休紀 0993-53-7974
	142	私	出水中央高等学校 医療福祉科 〒 899-0213 出水市西出水町 448	表迫 勝之 0996-62-0500	川畑 博美 0996-62-6677
	143	私	神村学園高等部 医療福祉科 〒 896-8686 串木野市下名 4460	神村 裕之 0996-32-3232	川瀬 勉 0996-32-2990
	(144)	県	宮之城農業高等学校 福祉科 〒 895-1811 薩摩郡宮之城町虎居 1900	東園 陽一 0996-53-0020	黒木加代子 0996-53-2718
沖 縄	(145)	県	陽明高等学校 総合学科 〒 901-2113 浦添市字大平 488	宮城 政一 098-879-3062	比嘉加代子 098-879-9520
栃 木	146	県	田沼高等学校 社会福祉科 〒 327-0312 安蘇郡田沼町栃本 300-1	高岡 正之 0283-62-3411	渡辺 淑子 0283-62-8404
大 分	147	県	大分東明高等学校 商業科 〒 870-8658 大分市千代町 2-4-4	古川 成門 097-535-0201	平嶋 充博 097-533-2660

昨年までの加盟校 133校
平成11年度新規加盟校 18校
平成11年度退会校 4校

あ と が き

事務局を引き受け、時間の流れに乗って忙しくしている間に現在に至りました。不慣れで行き届きませんでした。岡山大会報告書（通巻5号）をまとめることが出来ました。

主管校の岡山県ベル学園高等学校の校長先生をはじめ諸先生方、生徒の皆さんに大変お世話になりました。また岡山県の関係高等学校の先生方にもご協力いただき感謝しております。

この報告書の発刊にあたり、関係諸先生に厚くお礼を申し上げます。

(事務局)

大会予告

と き 平成12年11月1日(木)・2日(金)
ところ 兵庫県神戸市
主管校 兵庫県立新宮高等学校

理事会及び学科主任等代表者会議予告

と き 平成12年5月25日(木)
10時より 学科主任等代表者会議
2時より 理事会
ところ 家庭部会事務局(東京飯田橋駅下車)

事務局

栃木県立真岡北陵高等学校
〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷396
TEL 0285-82-3415
FAX 0285-83-4634